

# 海難状況等について

---

海上保安庁

交通部

平成27年2月



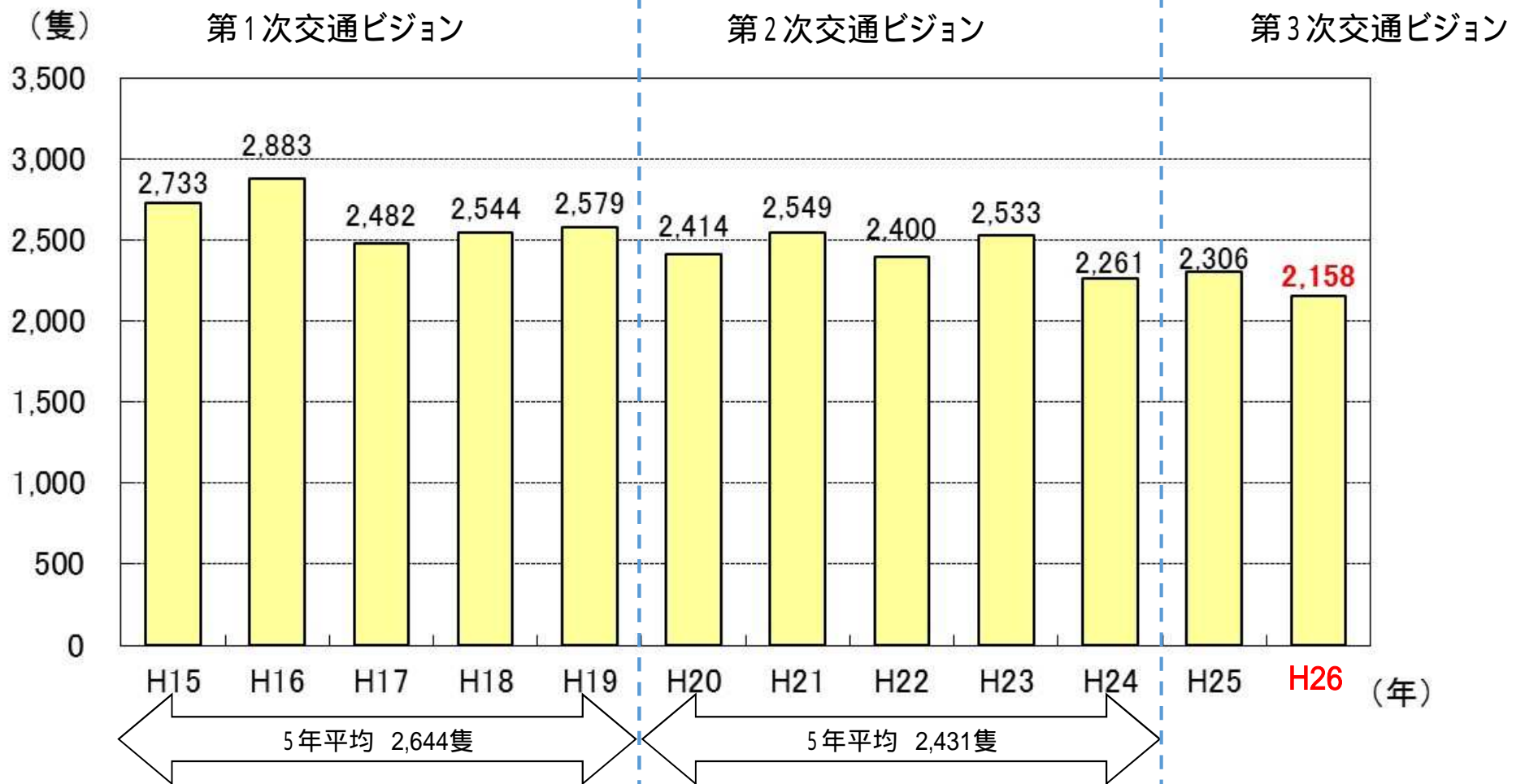
|                                  | ページ     |
|----------------------------------|---------|
| 船舶事故の現状及び原因 .....                | 1       |
| 全体傾向 .....                       | 2 ~ 5   |
| ふくそう海域 .....                     | 6 ~ 7   |
| 準ふくそう海域 .....                    | 8 ~ 9   |
| 港内 .....                         | 10      |
| 小型船舶 <sup>1</sup> .....          | 11 ~ 16 |
| 大型船舶 <sup>2</sup> .....          | 17 ~ 18 |
| <br>                             |         |
| 計画目標に関する船舶事故状況等 .....            | 19      |
| ふくそう海域における衝突・乗揚事故の低発生水準の維持 ..... | 20      |
| 港内等における衝突・乗揚事故の減少 .....          | 21      |
| 小型船舶における事故の減少 .....              | 22      |
| [参考]第9次交通安全基本計画の目標 .....         | 23      |
| <br>                             |         |
| 海上交通環境の現況 .....                  | 24      |
| 船舶の大型化 .....                     | 25 ~ 27 |
| AISの普及状況 .....                   | 28      |
| 航路標識の整備 .....                    | 29      |

1 「小型船舶」とは「プレジャーボート、漁船、遊漁船」をいう。

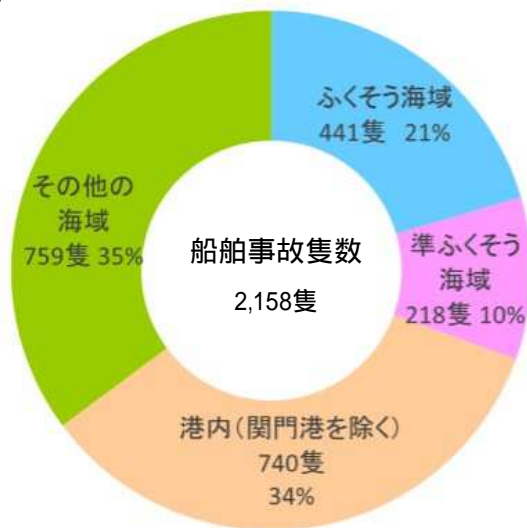
2 「大型船舶」とは「小型船舶以外」の船舶をいう。

# 船舶事故の現状及び原因

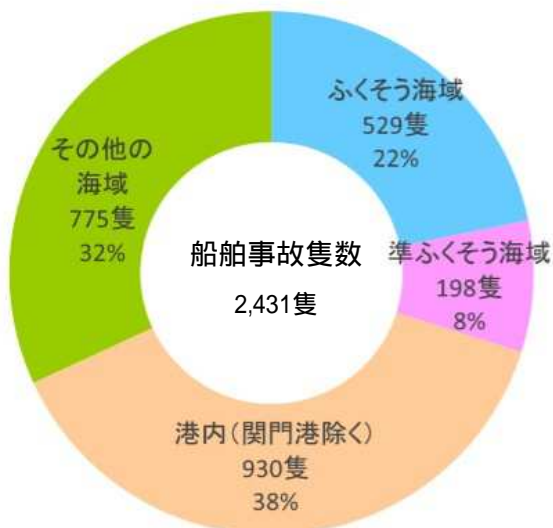
- ・ 平成26年の船舶事故隻数は、**2,158隻** ( )、前年と比較して、**148隻減少** (6.4%)
- ・ 第2次交通ビジョンの期間(平成20~24年)の年平均と比較して、**273隻減少** (11.2%)
- ・ 現在の統計の取り方となった平成13年以降最少。
- ・ 要因は分析中であるが、8月豪雨など施策以外の要因による面もあり、着実な対策の検討・実施が必要。



平成26年

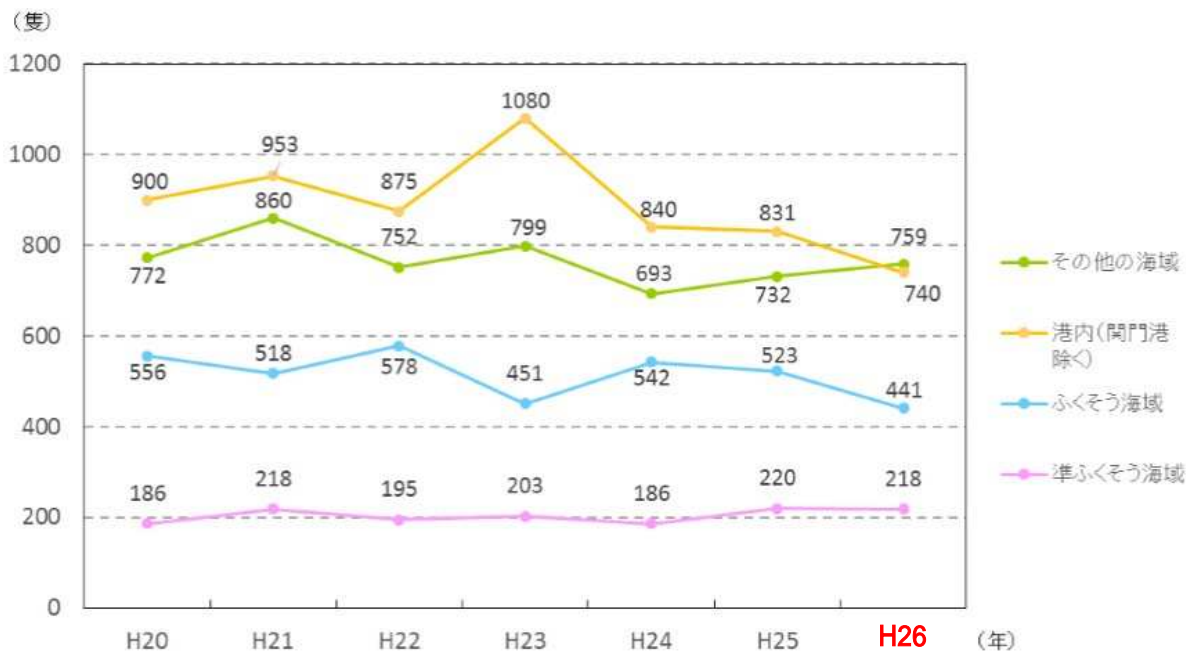


第2次交通ビジョンの期間(平成20~24年)の平均



## 海域別による船舶事故隻数の推移

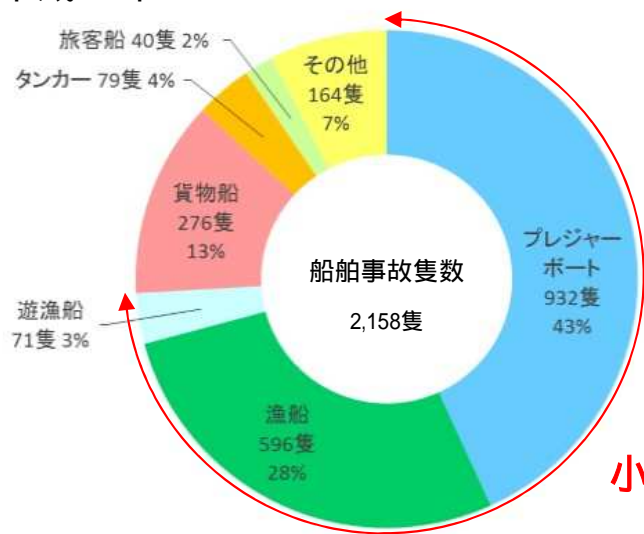
前年と比較して、その他の海域で**27隻増加**(3.7%)、港内で**91隻減少**(11.0%)、ふくそう海域で**82隻減少**(15.7%)、準ふくそう海域で**2隻減少**(0.9%)



ふくそう海域  
東京湾、伊勢湾、瀬戸内海及び関門港(海上交通安全法適用海域又は港則法適用海域)  
準ふくそう海域  
ふくそう海域を結ぶ東京湾湾口~石廊崎沖~伊勢湾口~潮岬沖~室戸岬沖~足摺岬沖の各海域を経て瀬戸内海に至る海域

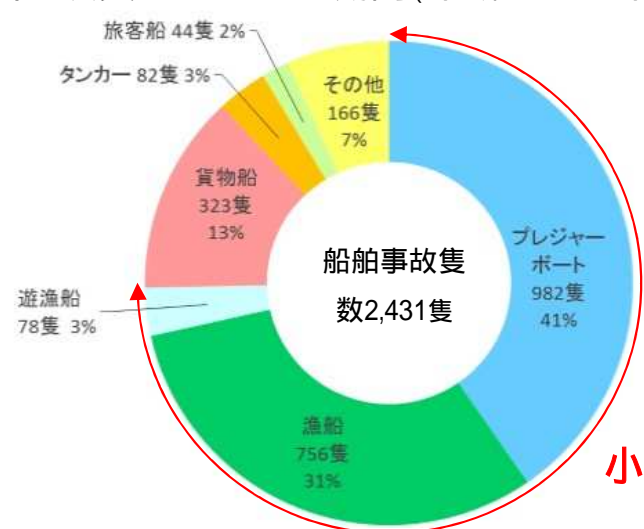
- ・ 船舶種類別では、プレジャーボート、漁船による事故隻数が減少。
- ・ 依然として、**小型船舶の事故隻数は全体の74%**を占め、着実な対策の検討・実施が必要。

平成26年



**小型船舶  
74%**

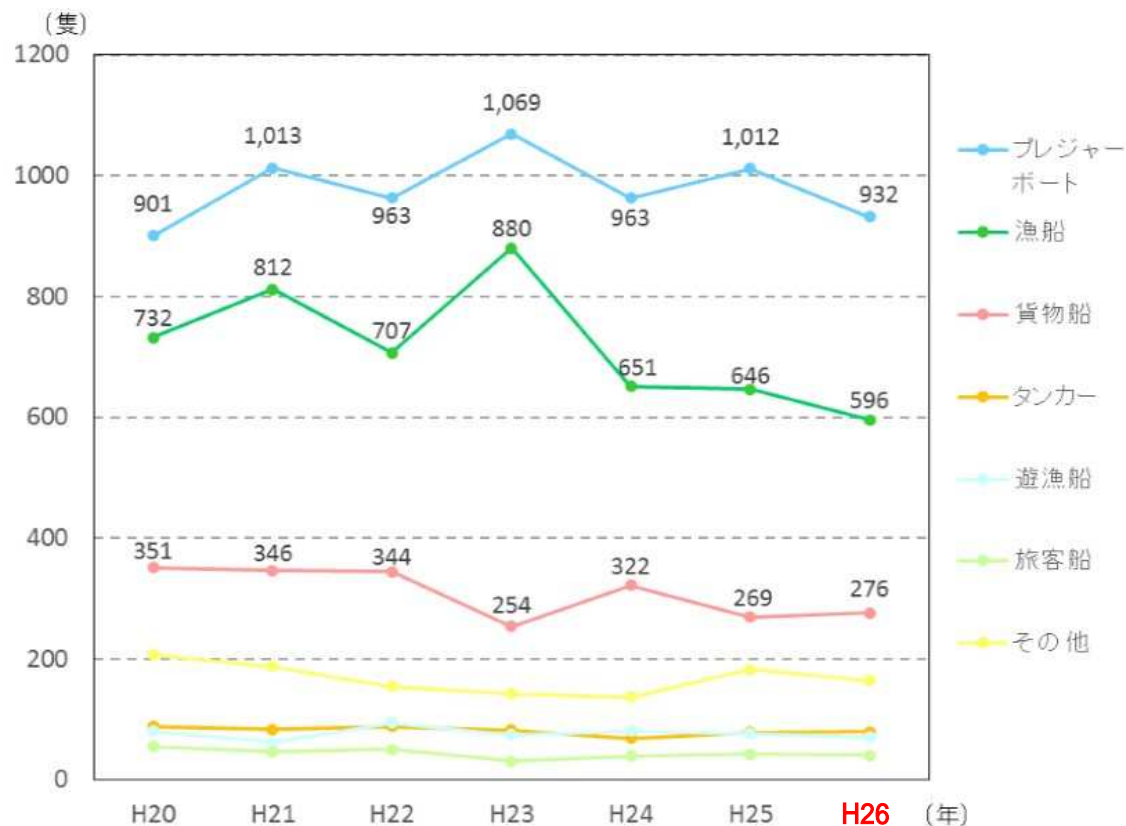
第2次交通ビジョンの期間(平成20~24年)の平均



**小型船舶  
75%**

## 船舶種類別による事故隻数の推移

前年と比較して、プレジャーボートが**80隻減少**(7.9%)、漁船が**50隻減少**(7.7%)、貨物船が**7隻増加**(2.6%)



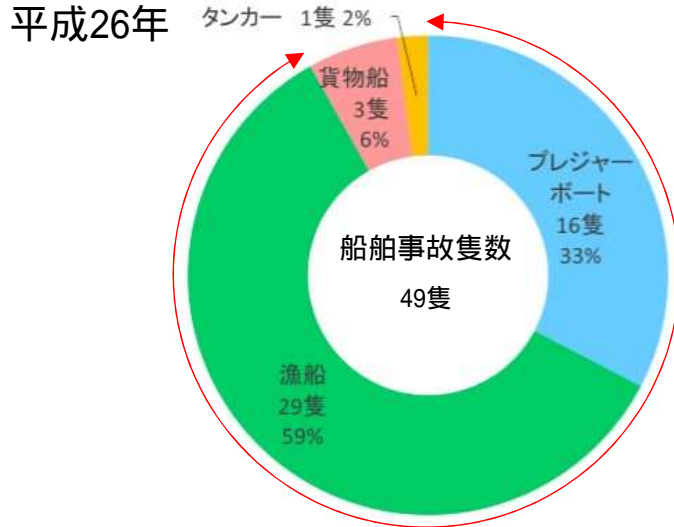
山陰地方豪雪関連事故(浸水)を含む

<内訳>

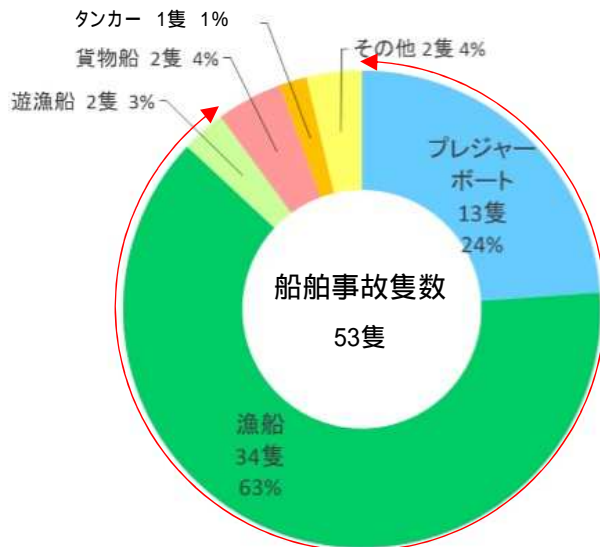
・H22:6隻(漁船2隻、プレジャーボート4隻)

・H23:346隻(漁船215隻、遊漁船8隻、プレジャーボート119隻、その他4隻)

## 死者・行方不明者を伴う船舶事故 隻数の割合

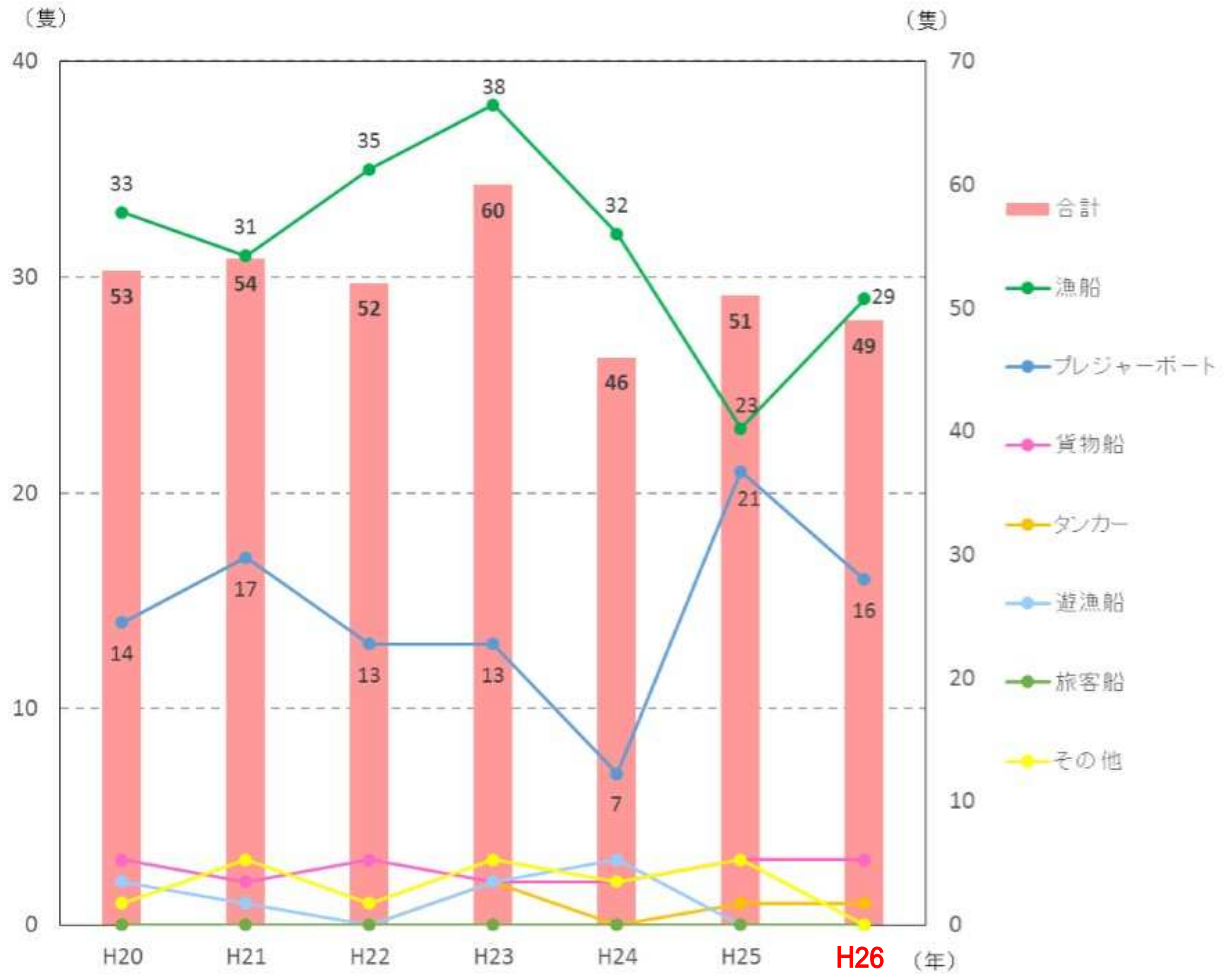


## 第2次交通ビジョンの期間(平成20～24年)の平均



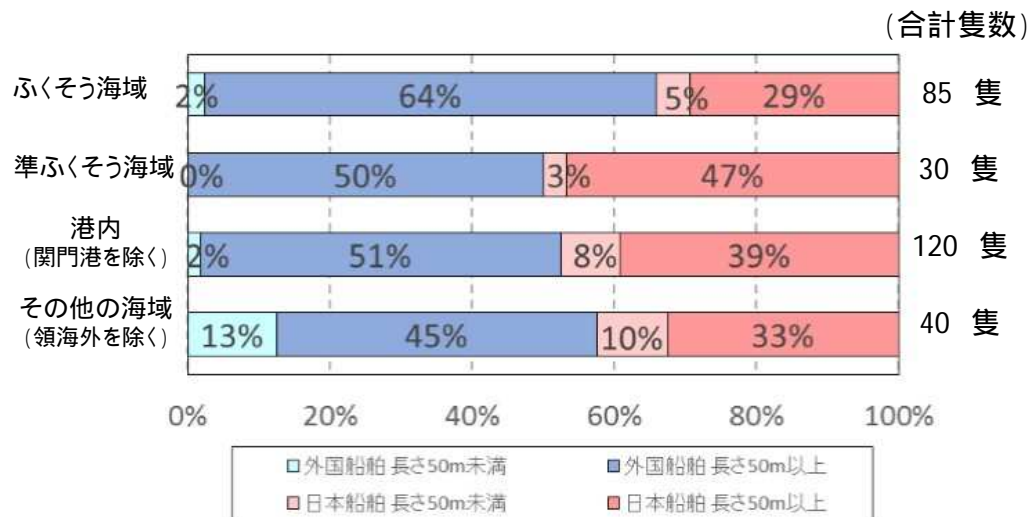
## 死者・行方不明者を伴う船舶事故隻数の推移

前年と比較して、**2隻減少**(23.5%)、  
漁船が**6隻増加**(26.1%)、プレジャーボートが**5隻減少**(23.8%)



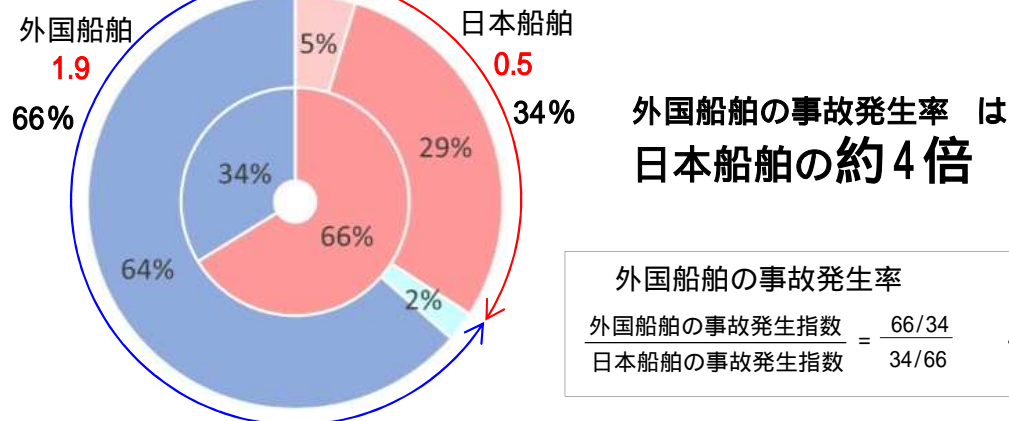
## 海域別における外国船舶と日本船舶の事故 隻数の割合 (AIS 搭載船舶)

平成26年



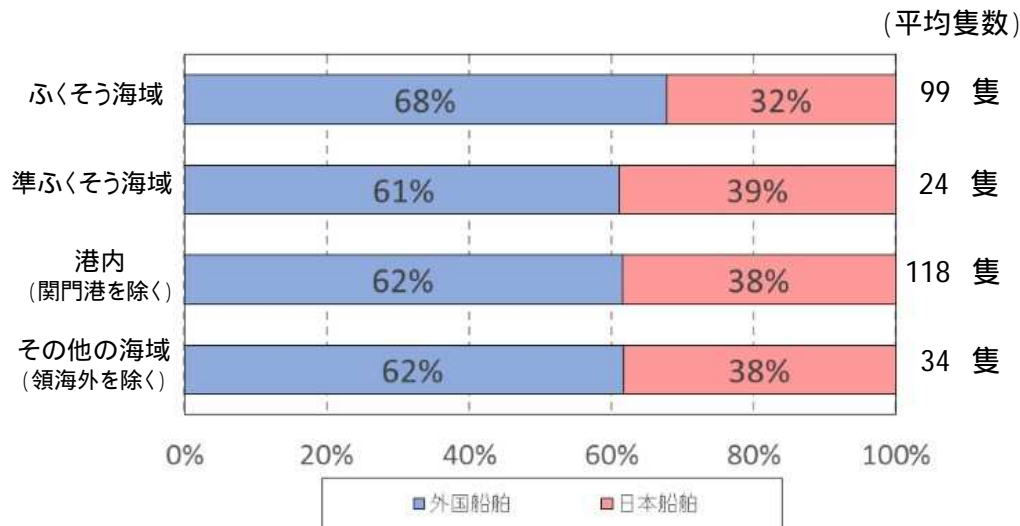
## ふくそう海域における外国船舶の事故発生率 (AIS 搭載船舶)

平成26年

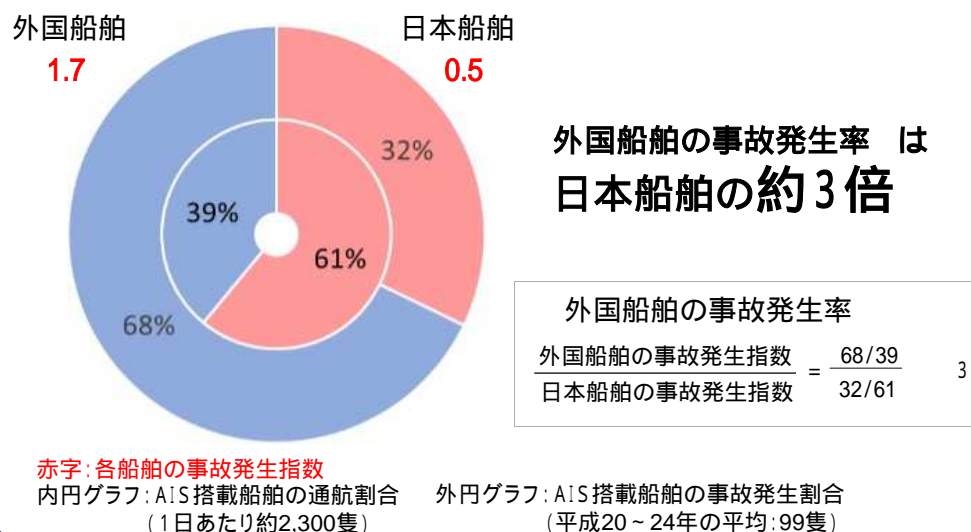


赤字: 各船舶の事故発生指数  
内円グラフ: AIS 搭載船舶の通航割合 (1日あたり約2,500隻)  
外円グラフ: AIS 搭載船舶の事故発生割合 (平成26年の合計: 85隻)

## 第2次交通ビジョンの期間(平成20~24年)の平均



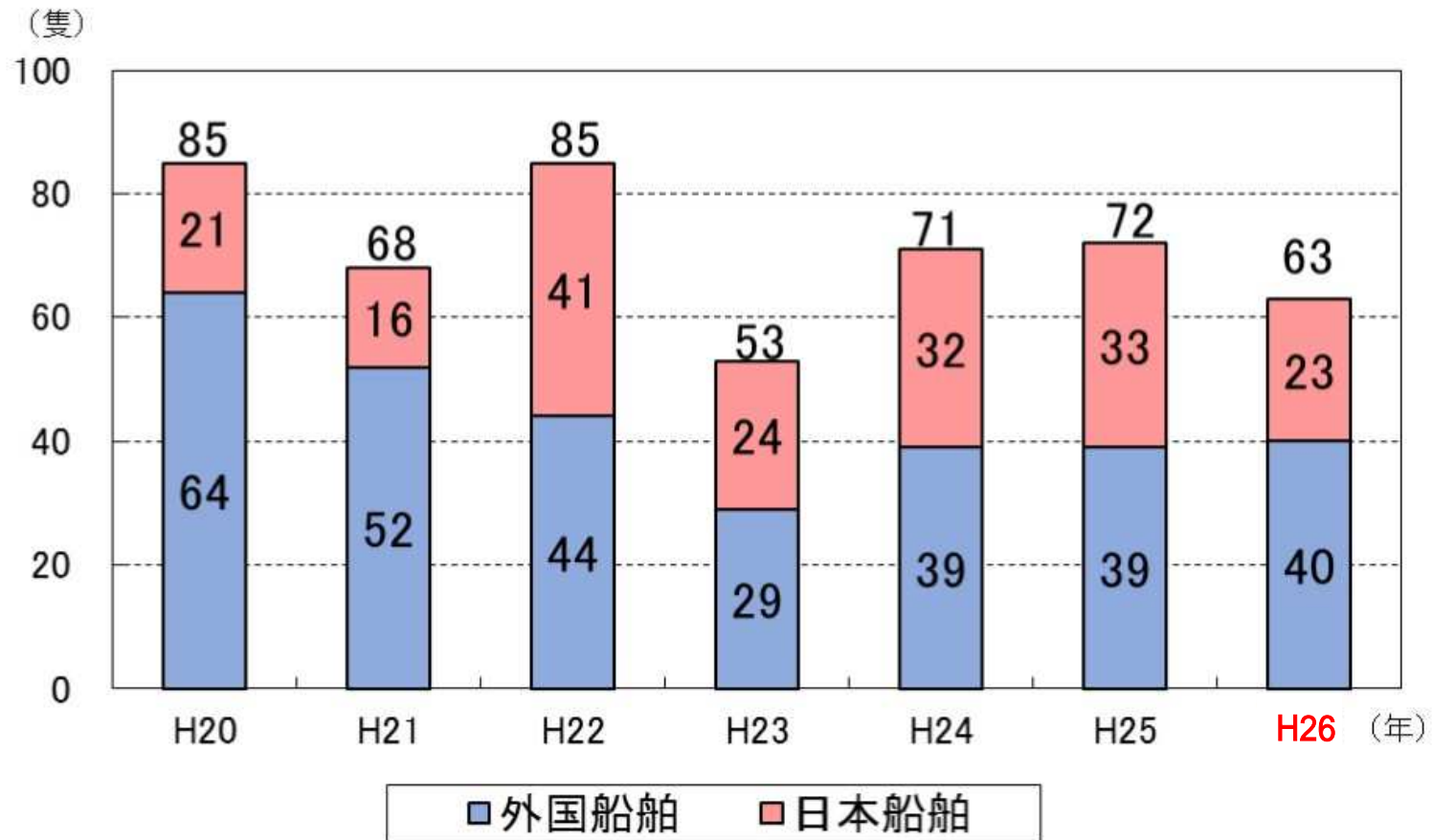
## 第2次交通ビジョンの期間(平成20~24年)の平均





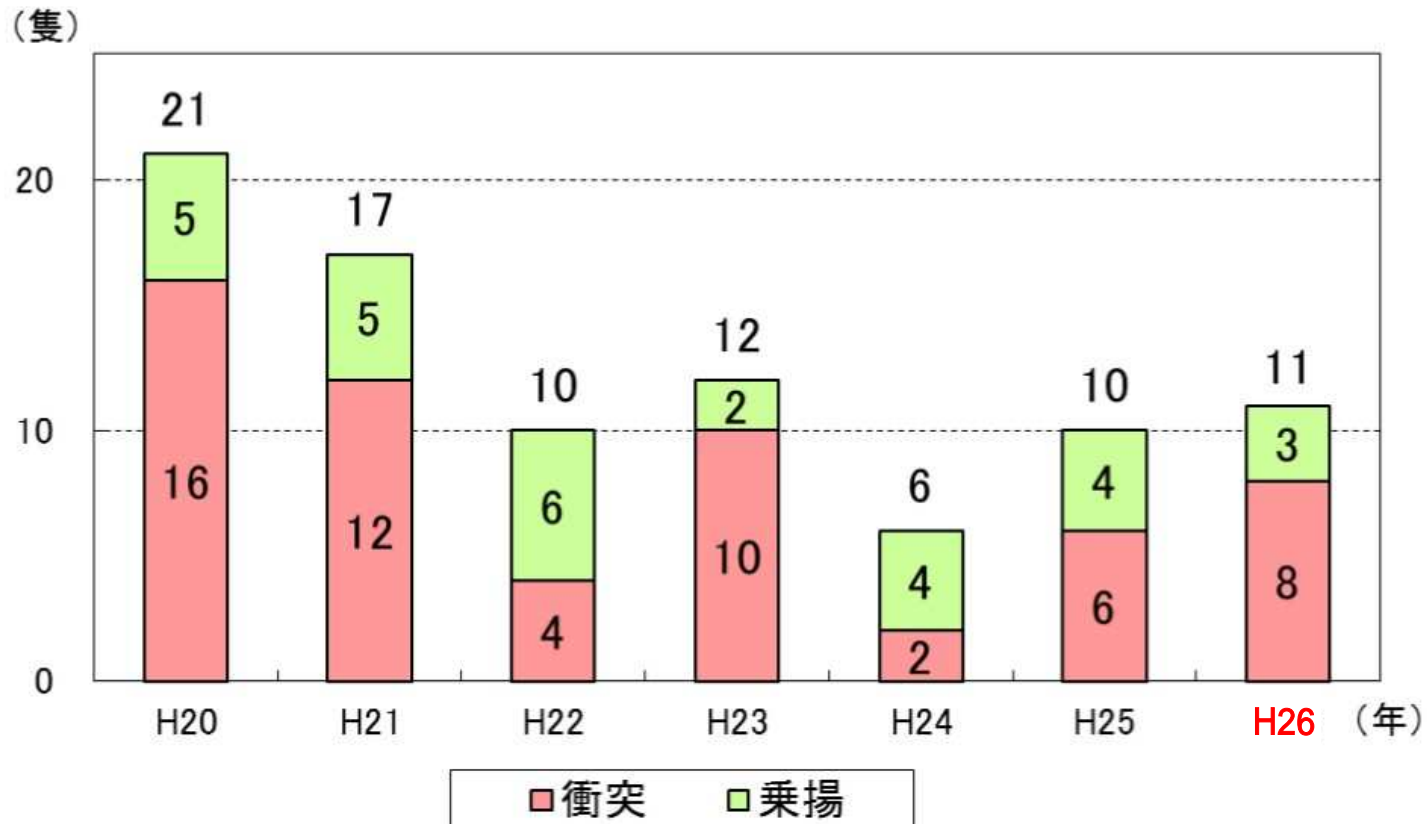
## ふくそう海域における衝突・乗揚事故隻数の推移 (AIS 搭載船舶)

前年と比較して外国船舶は1隻増加、日本船舶は10隻減少



## 準ふくそう海域における衝突・乗揚事故隻数の推移 (総トン数100トン以上)

前年と比較して衝突事故が2隻増加、乗揚事故が1隻減少

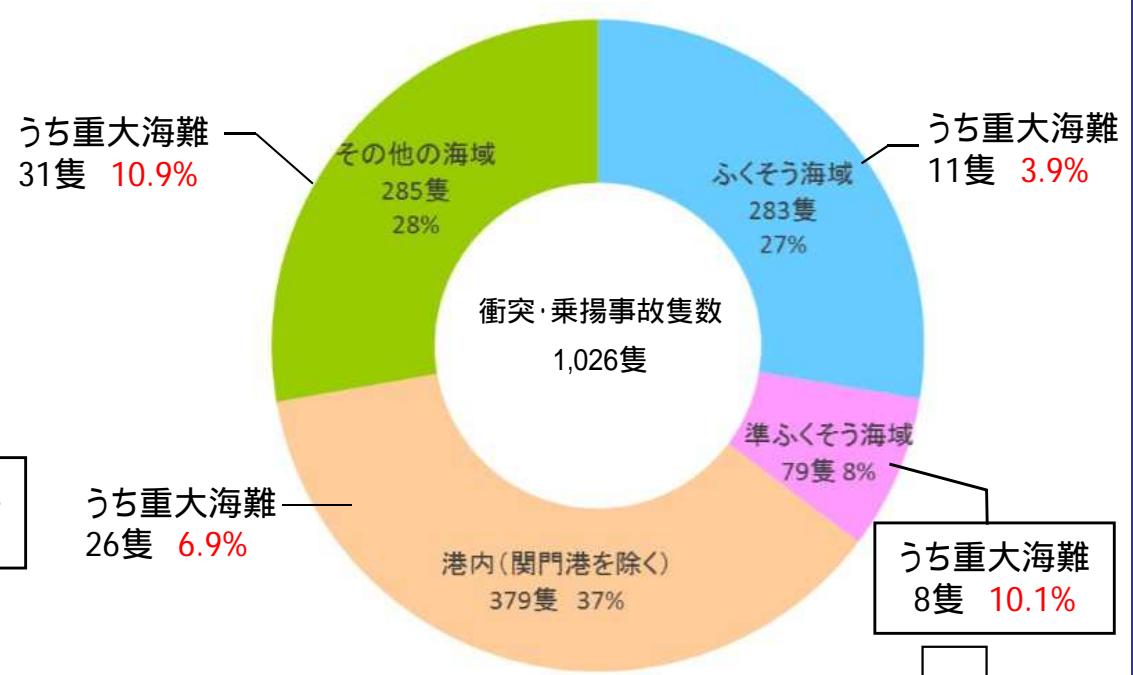
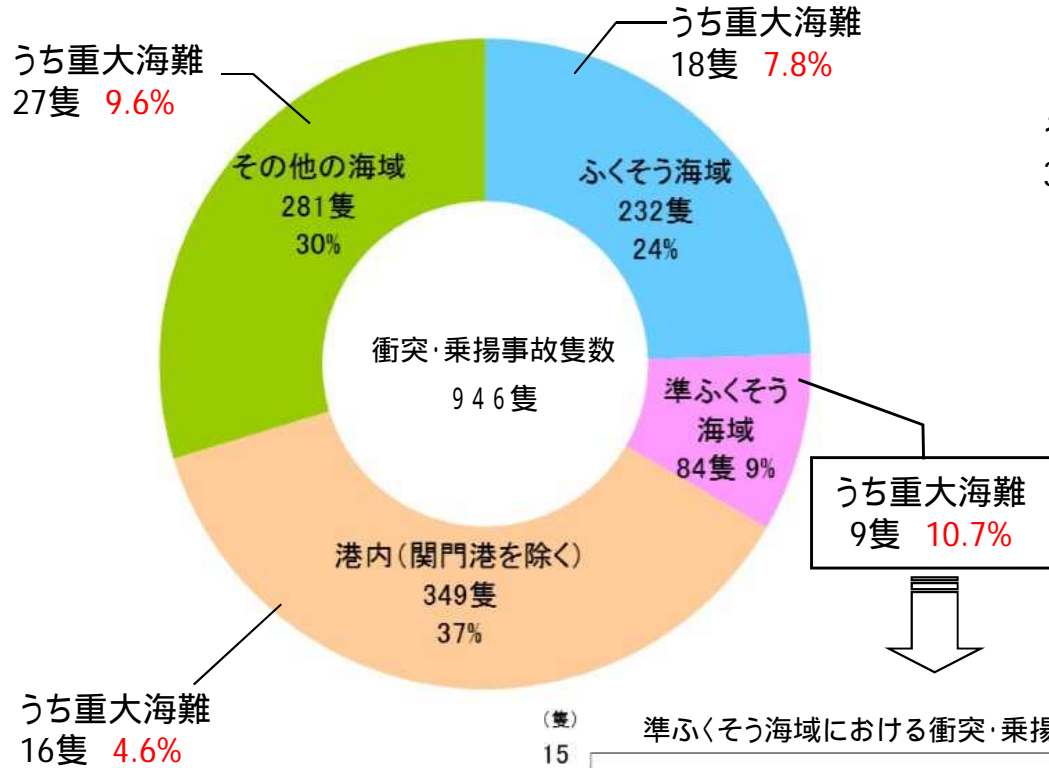


衝突事故にあっては、100トン以上の船舶同士に限る

## 海域別における衝突・乗揚事故隻数と重大海難の割合

平成26年

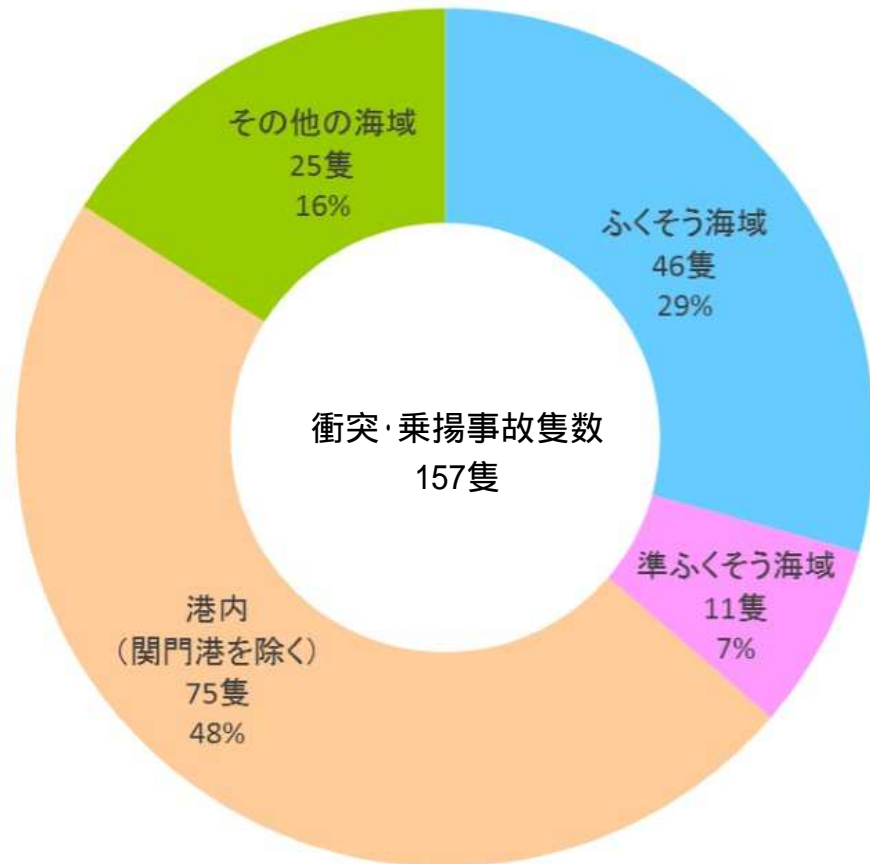
第2次交通ビジョンの期間(平成20~24年)の平均



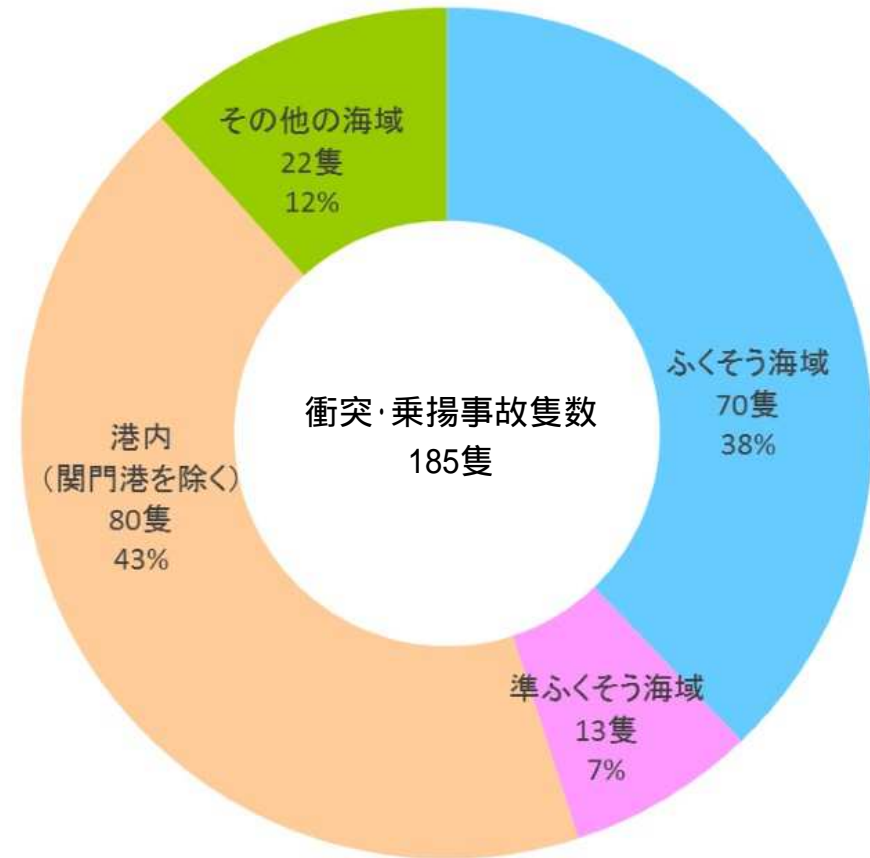
重大海難  
死者・行方不明者、沈没・全損、油の流出等を伴う船舶事故

海域別における衝突・乗揚事故隻数の割合(総トン数100トン以上)

平成26年



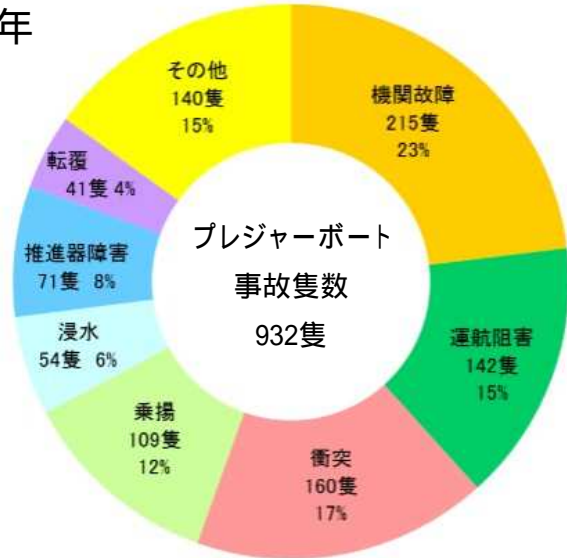
第2次交通ビジョンの期間(平成20~24年)の平均



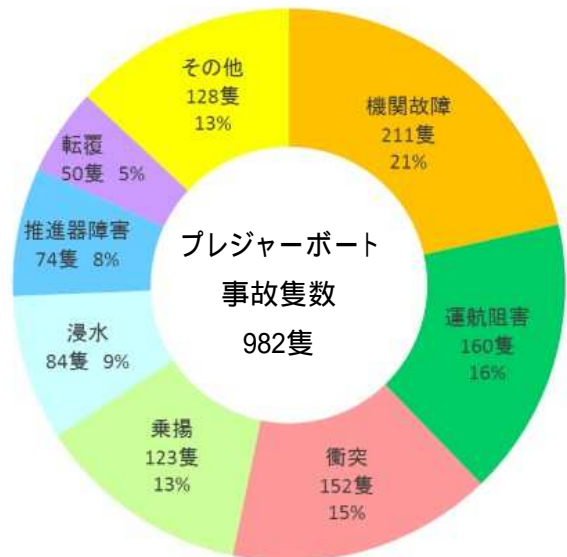
衝突事故にあっては、100トン以上の船舶同士に限る

## プレジャーボートの事故種類別事故 隻数の割合

平成26年

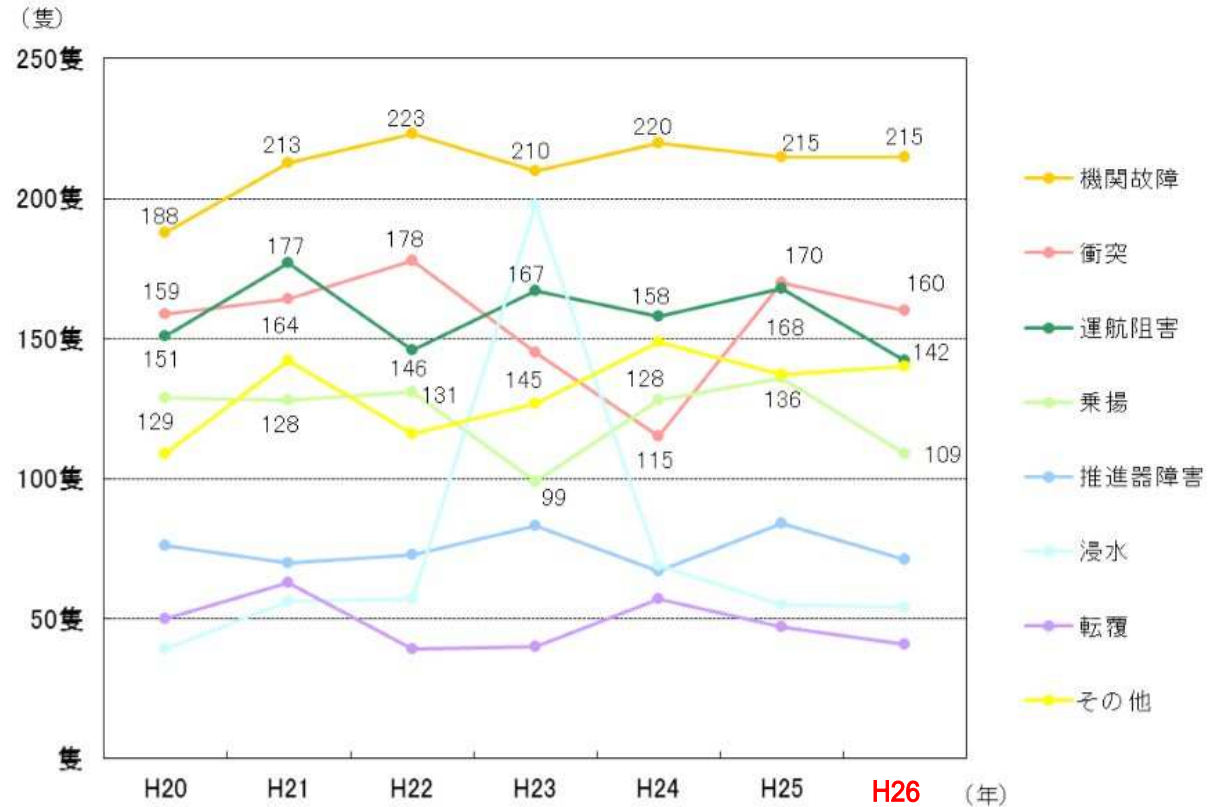


第2次交通ビジョンの期間(平成20~24年)の平均



## プレジャーボートの事故種類別事故隻数の推移

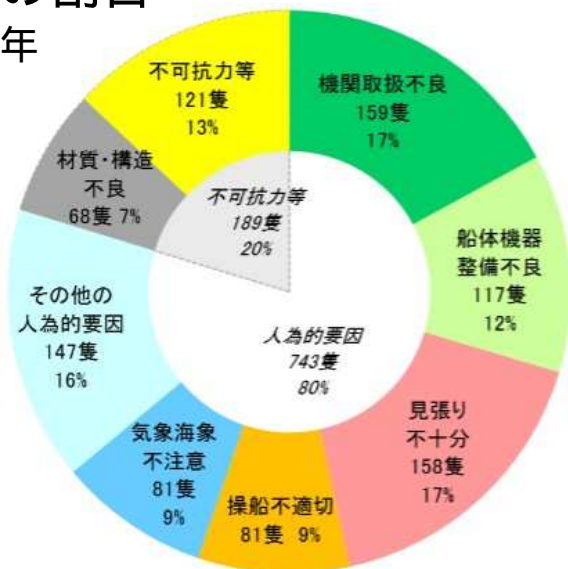
前年と比較して、機関故障は横ばい、  
衝突が10隻減少(5.8%)、運航阻害が26隻減少(15.5%)、  
乗揚が27隻減少(19.9%)



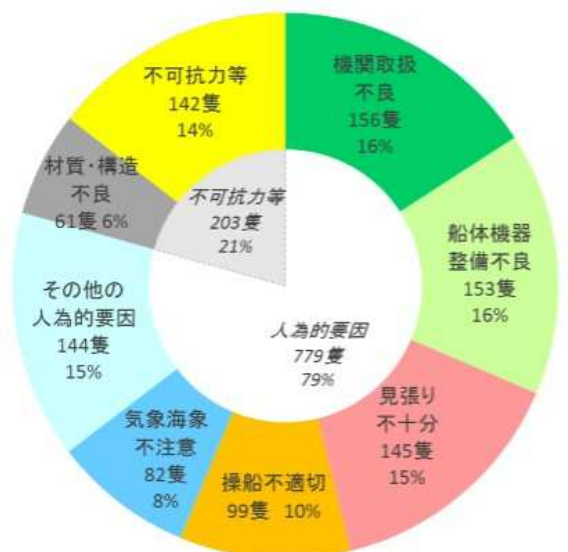
浸水：山陰地方豪雪関連事故（H22：4隻、H23：119隻）を含む  
プレジャーボート：  
モーターボート、ミニボート、ヨット、手漕ぎボート、水上オートバイ

## プレジャーボートの事故原因別事故 隻数の割合

平成26年

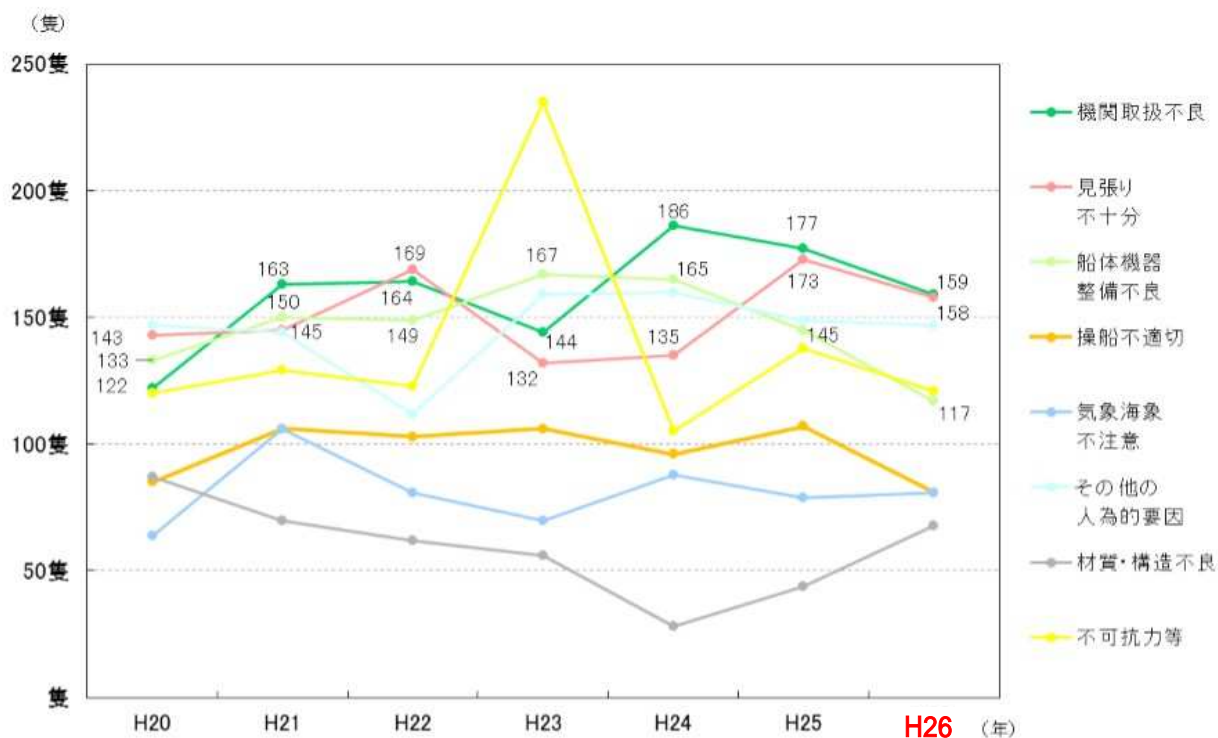


第2次交通ビジョンの期間(平成20~24年)の平均



## プレジャーボートの事故原因別事故隻数の推移

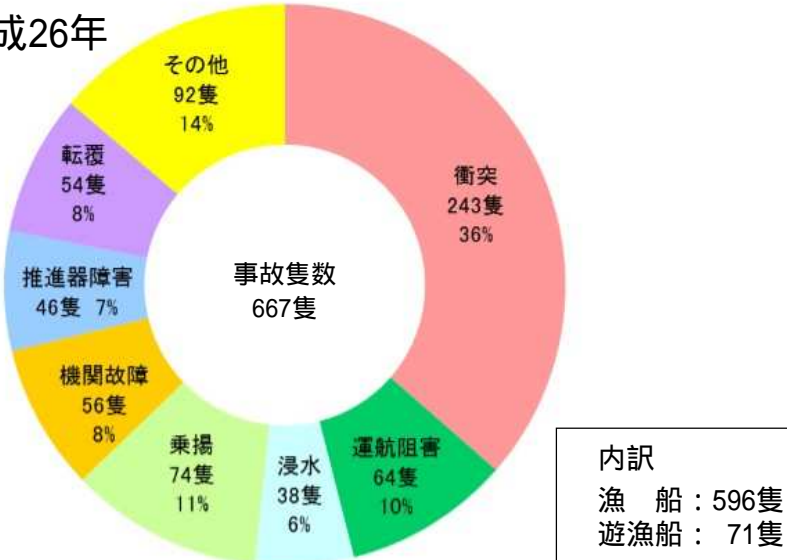
前年と比較して、機関取扱不良が18隻減少(10.0%)、  
見張り不十分が20隻減少(11.6%)、  
船体機器整備不良が28隻減少(19.3%)



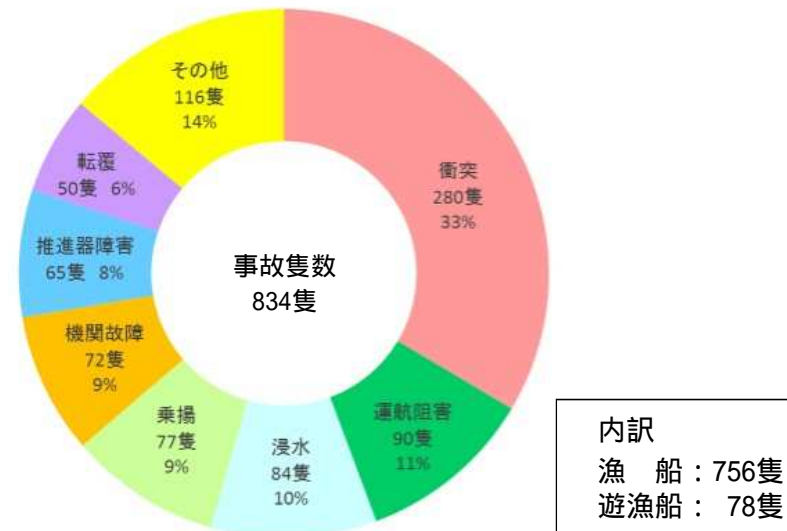
不可抗力等：山陰地方豪雪関連事故（H22：4隻、H23：119隻）を含む  
プレジャーボート：  
モーターボート、ミニボート、ヨット、手漕ぎボート、水上オートバイ

## 漁船・遊漁船の事故種類別事故隻数の割合

平成26年

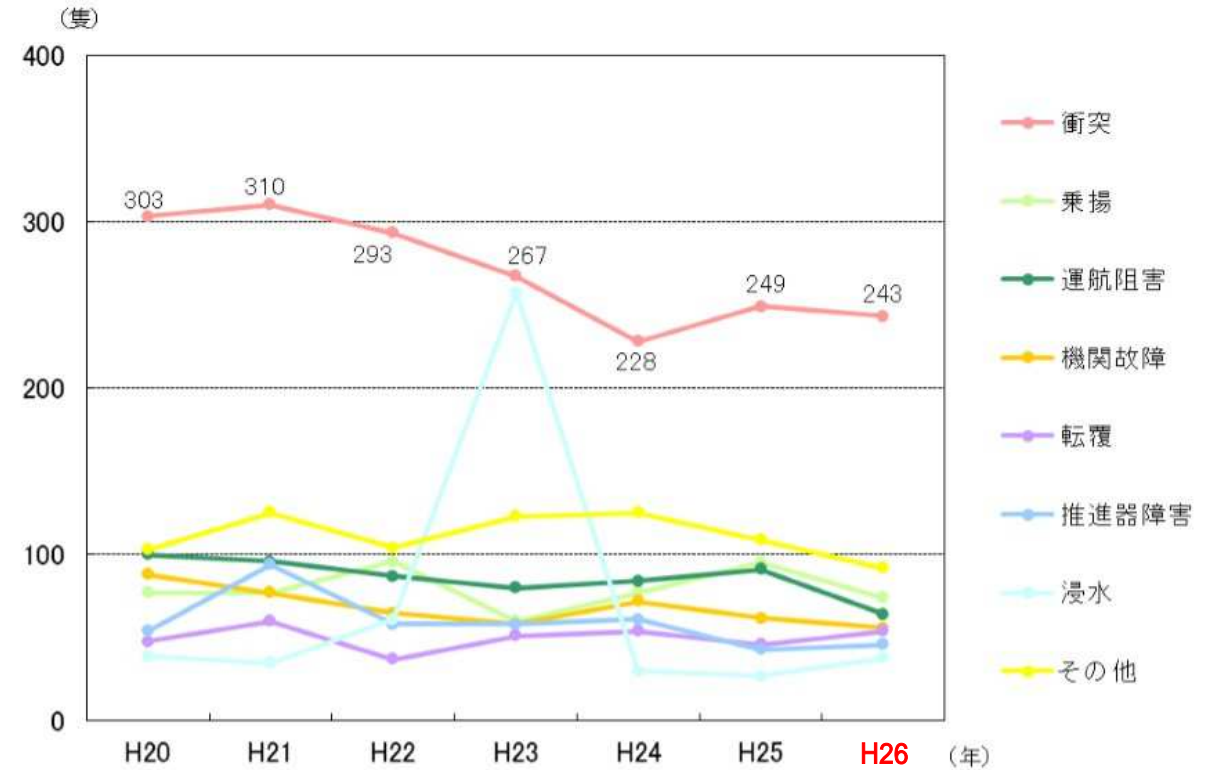


## 第2次交通ビジョンの期間(平成20～24年)の平均



## 漁船・遊漁船の事故種類別事故隻数の推移

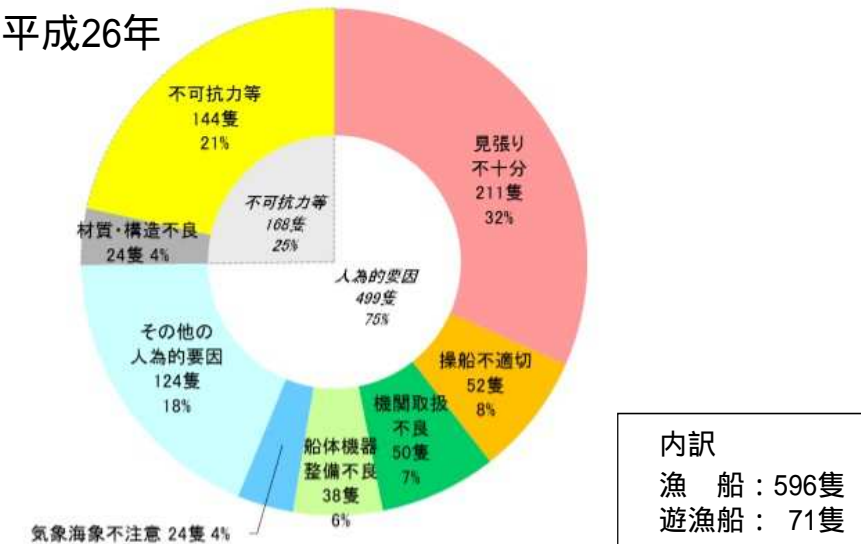
前年と比較して、衝突が6隻減少(2.4%)



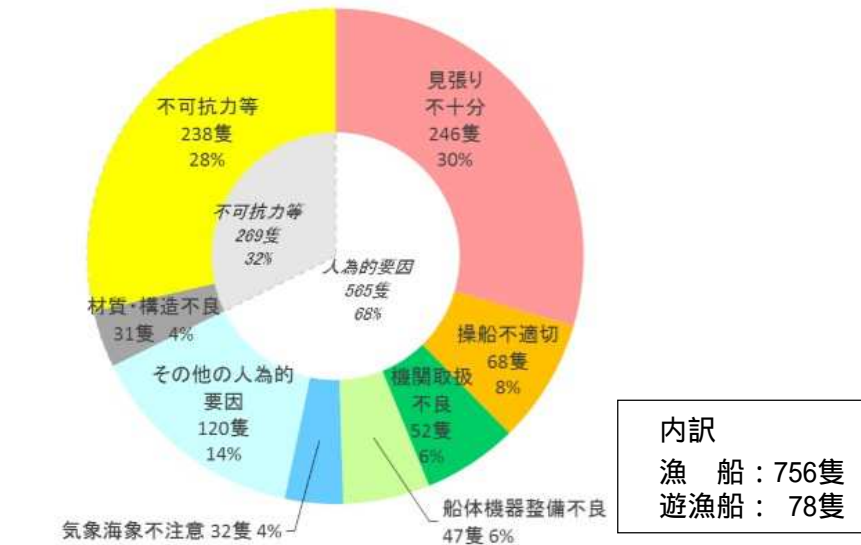
浸水：山陰地方豪雪関連事故(H22：2隻、H23：223隻)を含む

## 漁船・遊漁船の事故原因別事故隻数の割合

平成26年

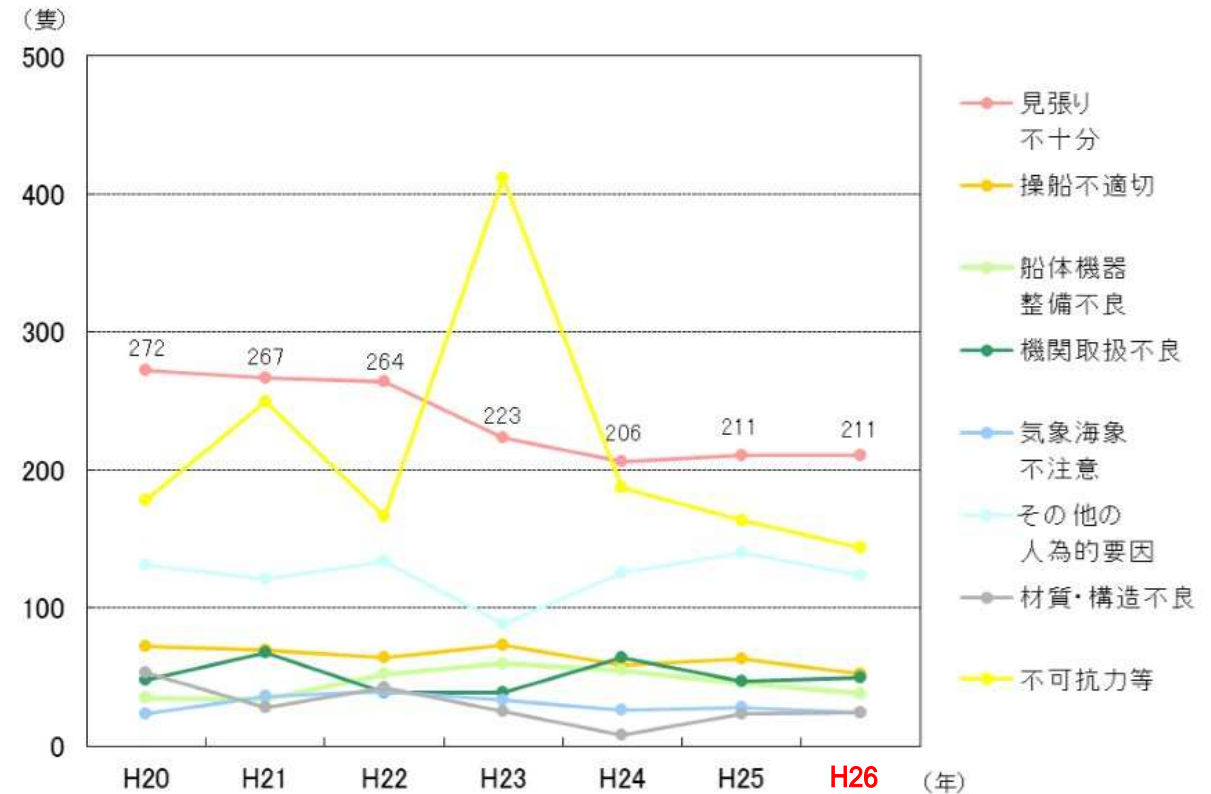


## 第2次交通ビジョンの期間(平成20～24年)の平均



## 漁船・遊漁船の事故原因別事故隻数の推移

前年と比較して、見張り不十分が横ばい

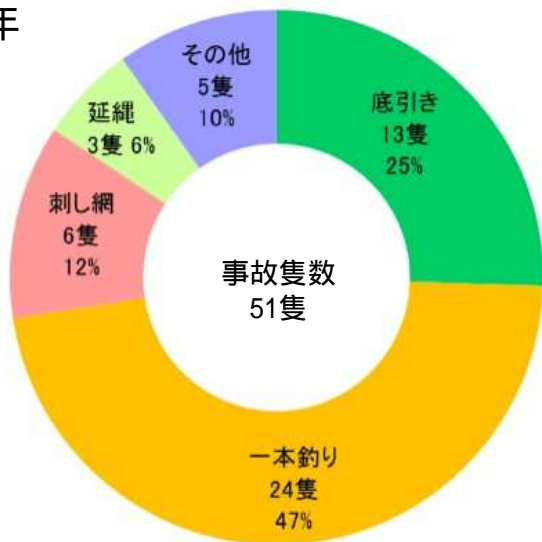


不可抗力等：山陰地方豪雪関連事故（H22：2隻、H23：223隻）を含む



## 漁船(操業中)の漁業種類別衝突事故 隻数の割合

平成26年

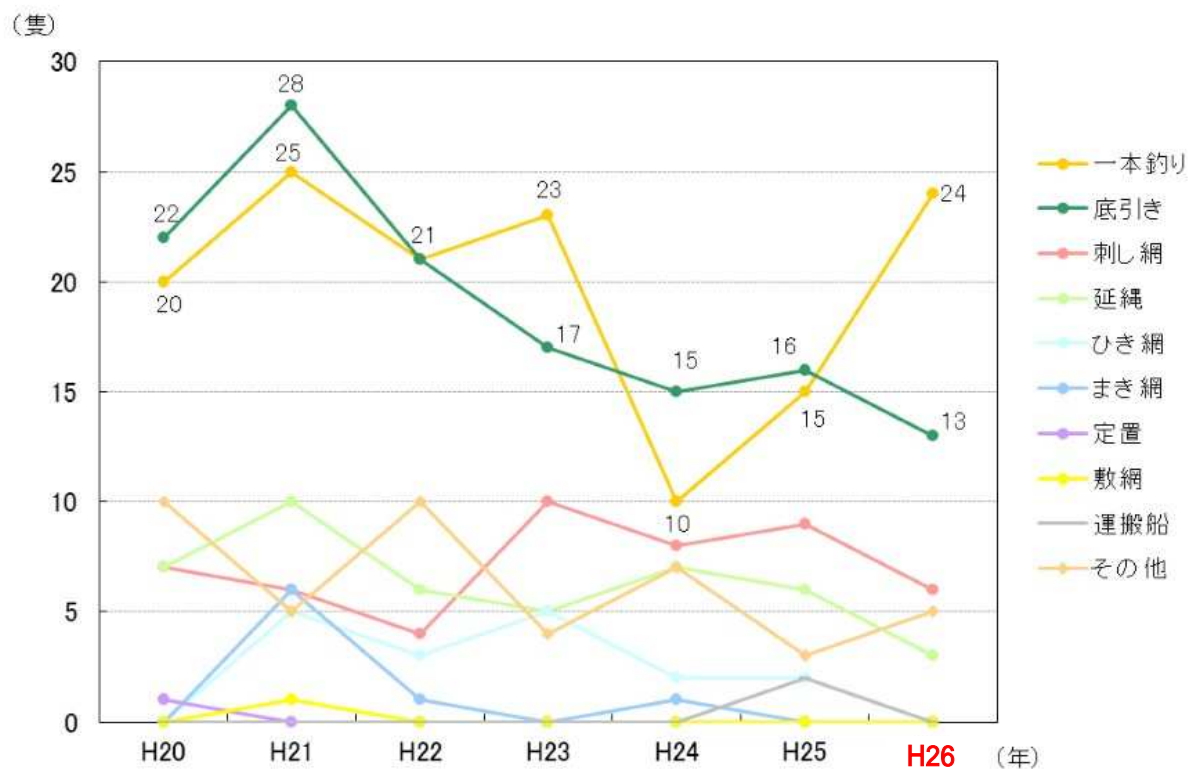


## 第2次交通ビジョンの期間(平成20~24年)の平均



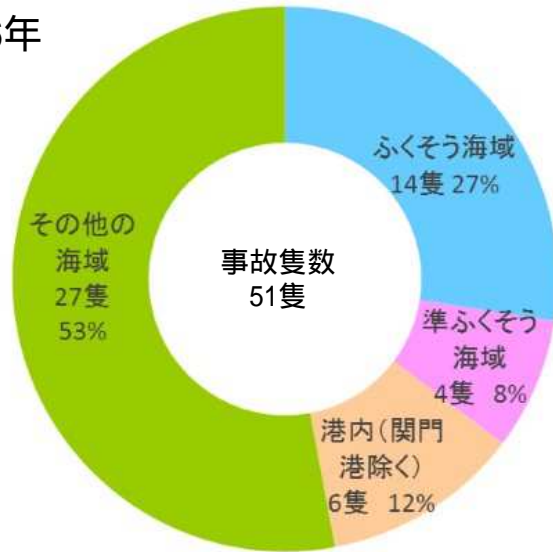
## 漁船(操業中)の漁業種類別衝突事故隻数の推移

前年と比較して、一本釣りが**9隻増加**(60.0%)  
底引きが**3隻減少**(18.8%)

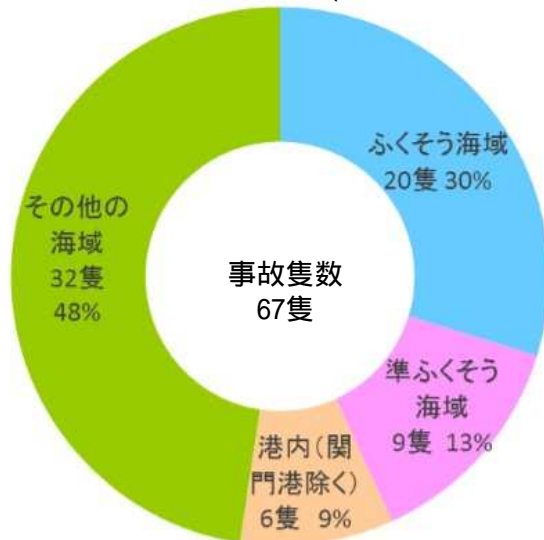


## 漁船(操業中)の海域別衝突事故隻数の割合

平成26年

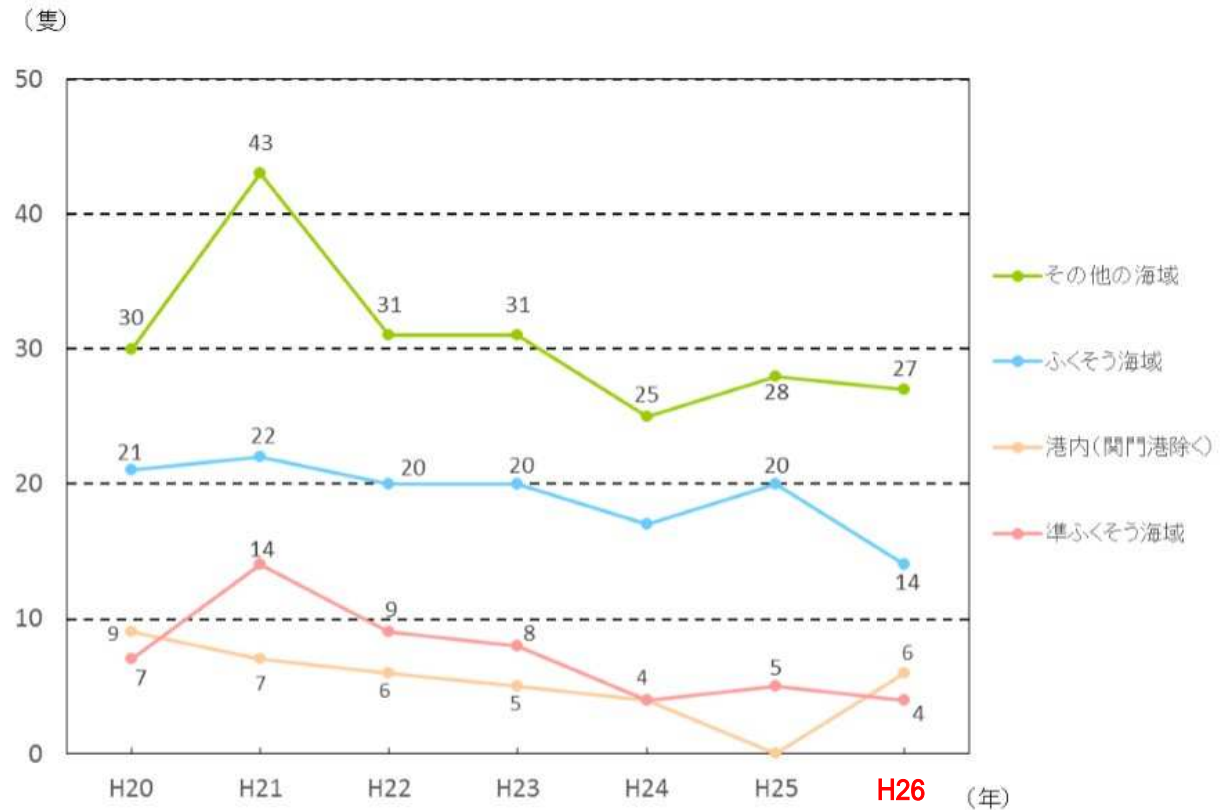


第2次交通ビジョンの期間(平成20~24年)の平均



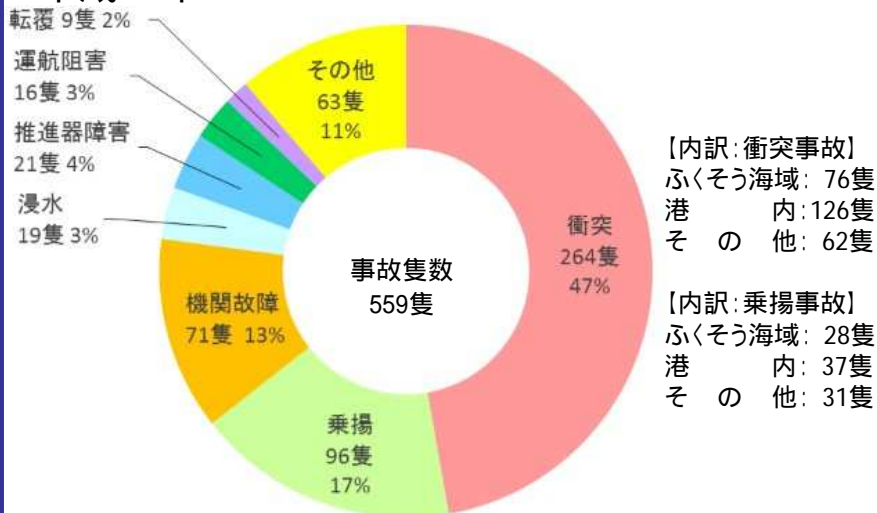
## 漁船(操業中)の海域別衝突事故隻数の推移

前年と比較して、その他の海域が**1隻減少**(3.6%)、  
ふくそう海域が**6隻減少**(30.0%)、港内(関門港を除く)が**6隻増加**、  
準ふくそう海域が**1隻減少**(20.0%)

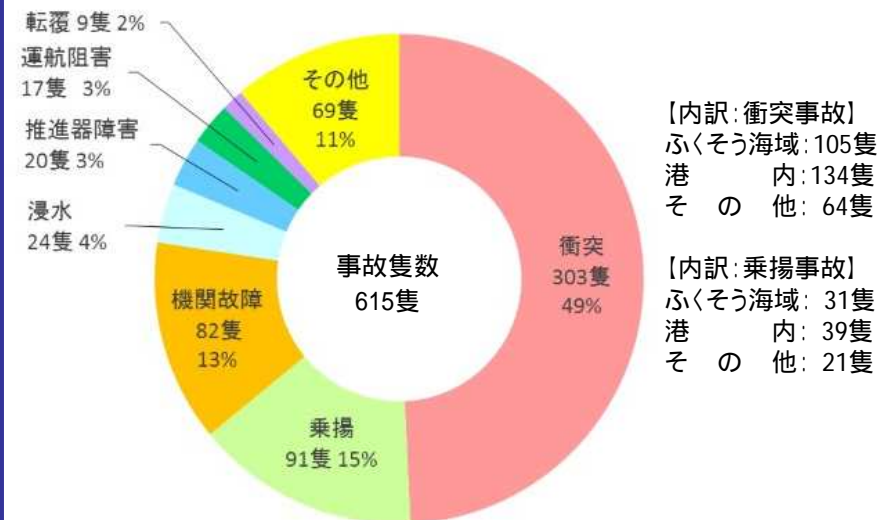


## 大型船舶(小型船舶以外)の事故種別別事故隻数の割合

平成26年

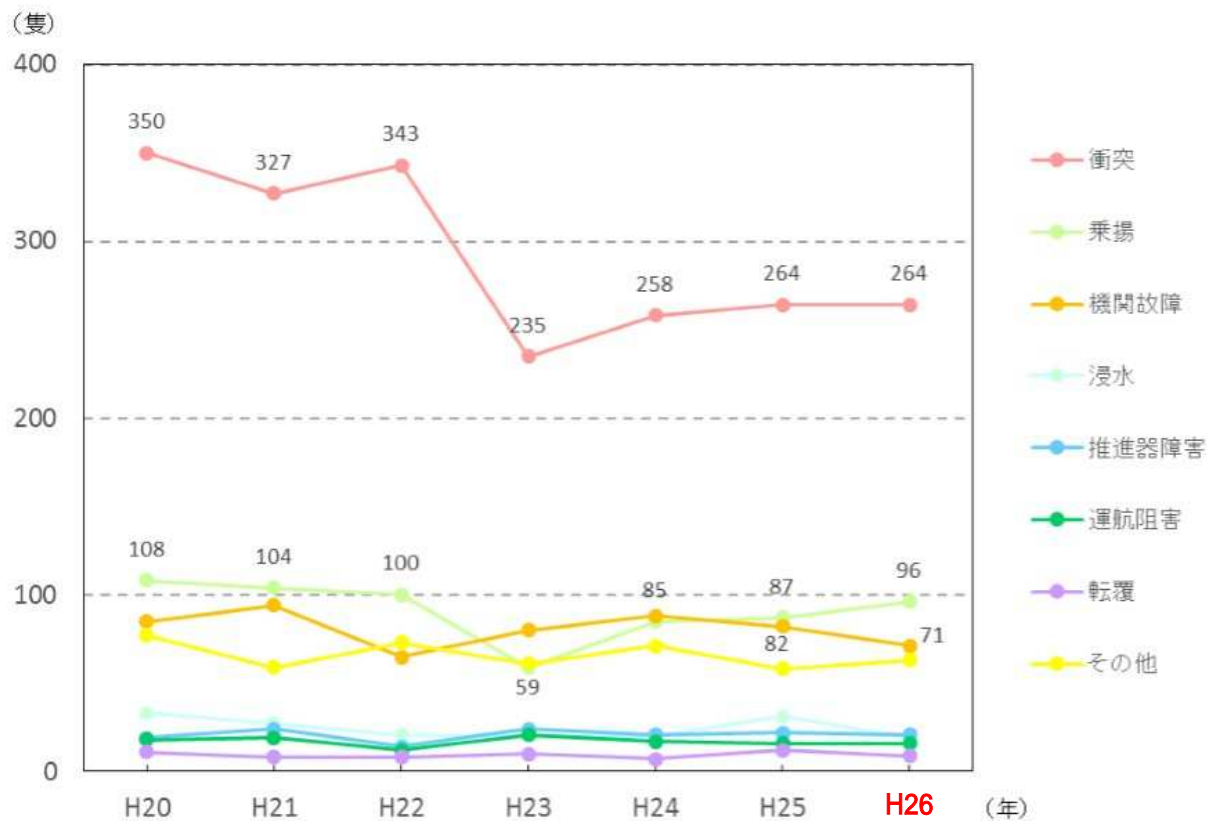


## 第2次交通ビジョンの期間(平成20~24年)の平均



## 大型船舶(小型船舶以外)の事故種別別事故隻数の推移

前年と比較して、衝突が横ばい、乗揚が9隻増加(10.3%)、機関故障が11隻減少(13.4%)



## 大型船舶(小型船舶以外)の事故原因別事故隻数の割合

平成26年

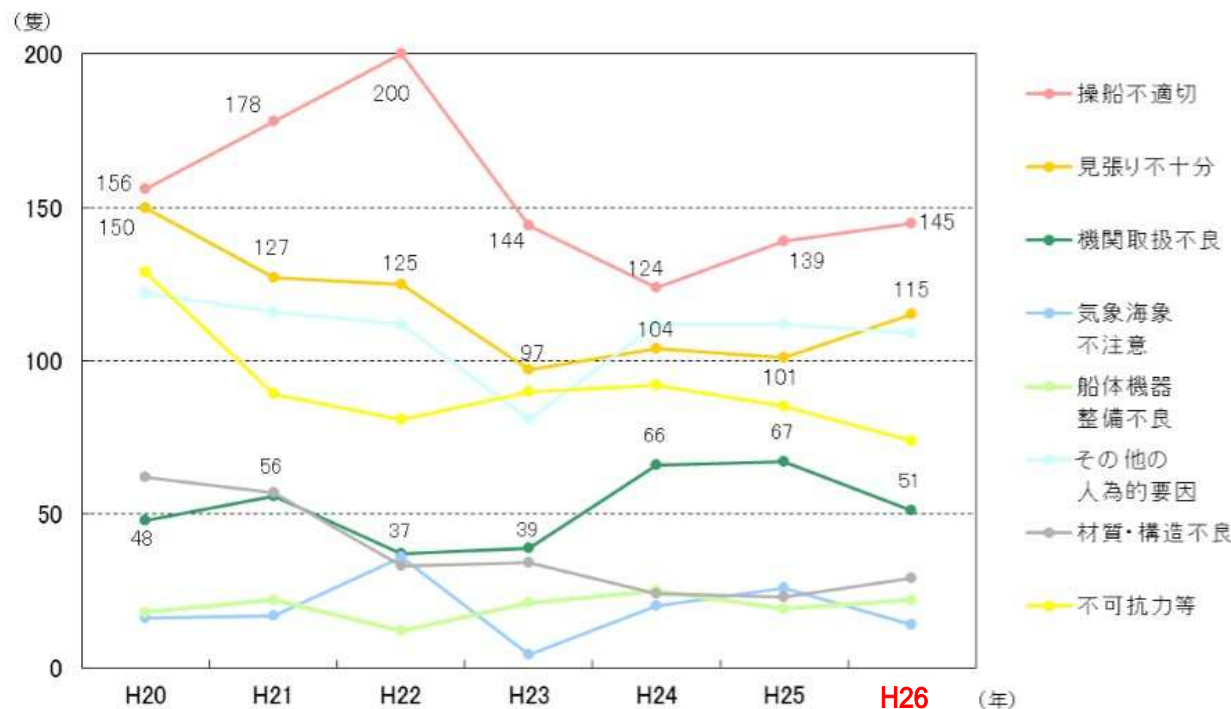


## 第2次交通ビジョンの期間(平成20~24年)の平均



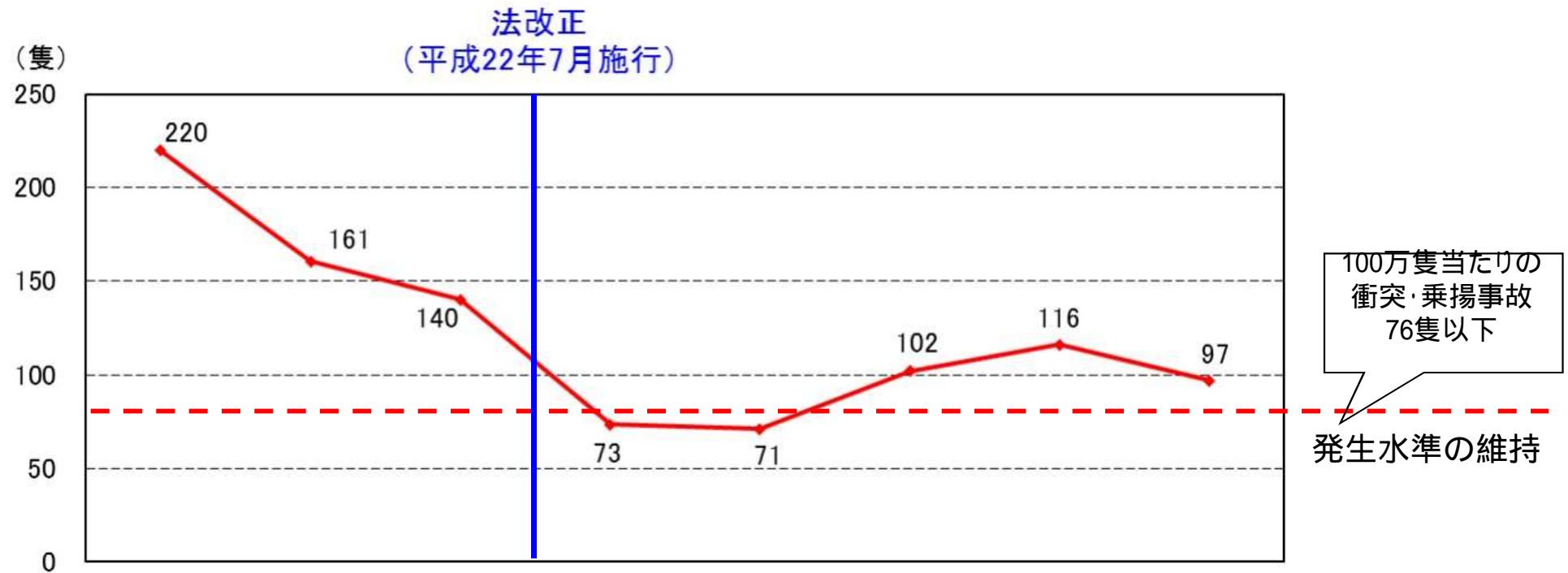
## 大型船舶(小型船舶以外)の事故原因別事故隻数の推移

前年と比較して、操船不適切が**6隻増加**(4.3%)  
見張り不十分が**14隻増加**(13.9%)  
機関取扱不良が**16隻減少**(23.9%)



# 計画目標に関する船舶事故状況等

ふくそう海域におけるAIS搭載船舶通航隻数100万隻当たりの衝突・乗揚事故発生の推移



|             | H19.7-<br>H20.6 | H20.7-<br>H21.6 | H21.7-<br>H22.6 | H22.7-<br>H23.6 | H23.7-<br>H24.6 | H24.7-<br>H25.6 | H25     | H26     |
|-------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|---------|---------|
| 事故隻数        | 79              | 66              | 60              | 33              | 34              | 51 注            | 59      | 51      |
| AIS<br>通航隻数 | 359,377         | 410,988         | 428,452         | 449,725         | 478,168         | 500,423         | 507,576 | 526,013 |

対象海域：航路及び航路付近海域(海上交通センターのレーダーサービスエリア)  
ただし、名古屋港海上交通センターの全海域及び関門港以外の港域を除く

対象事故隻数：総トン数100トン以上の船舶又はAIS搭載船舶

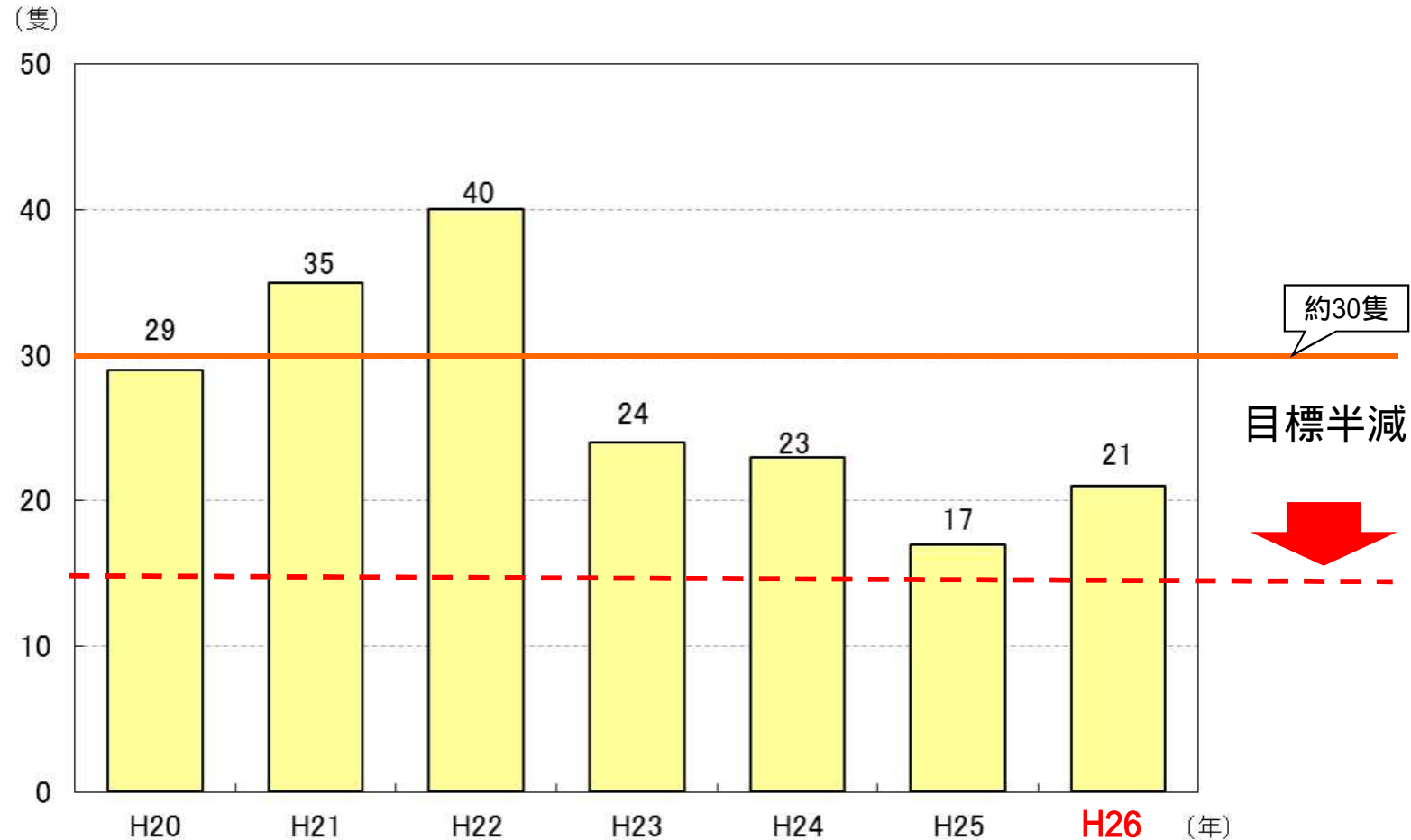
AIS通航隻数：海上交通センター(名古屋港海上交通センターを除く)の情報提供可能海域内の航路を通航したAIS搭載船舶

注) 答申では42隻(速報値)ですが、対象海域等を精査したところ、51隻(確定値)となっております。

## 港内等における衝突・乗揚事故発生の推移

第2次交通ビジョンの期間(平成20～24年)の船舶事故の平均隻数は、約30隻(151隻/5年間)

平成26年の船舶事故隻数は、**21隻**



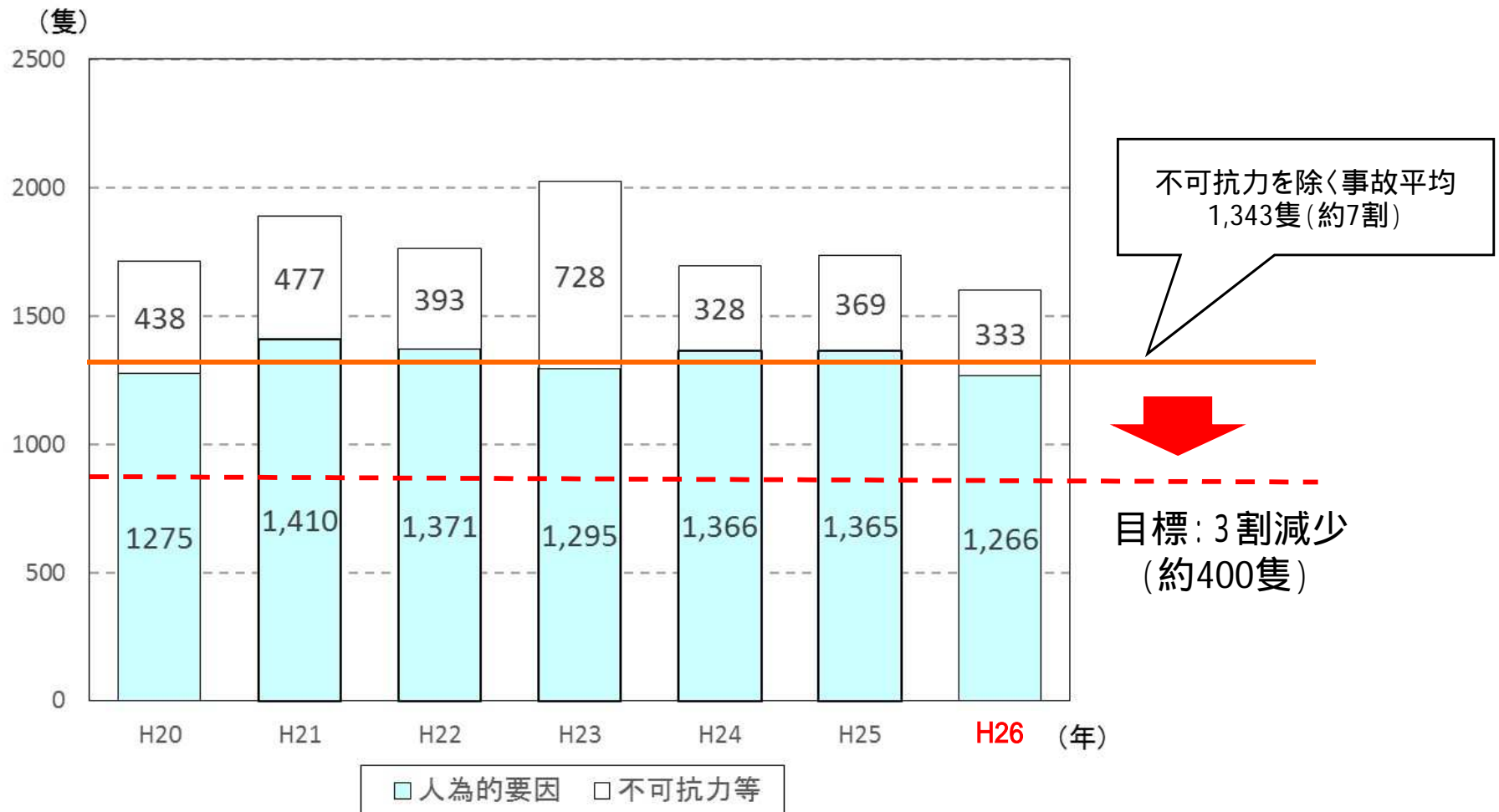
対象海域：東京湾(情報聴取義務海域を除く)、京浜港、千葉港

対象事故隻数：総トン数100トン以上の船舶

## 小型船舶における事故発生の推移

第2次交通ビジョンの期間(平成20~24年)の小型船舶事故の平均隻数は、1,343隻(6,717隻 / 5年間)

平成26年の船舶事故隻数は**1,266隻に減少(77隻減)**しているものの、計画目標の達成には、**さらに大幅な減少が必要**





### 我が国周辺海域で発生する船舶事故隻数の減少

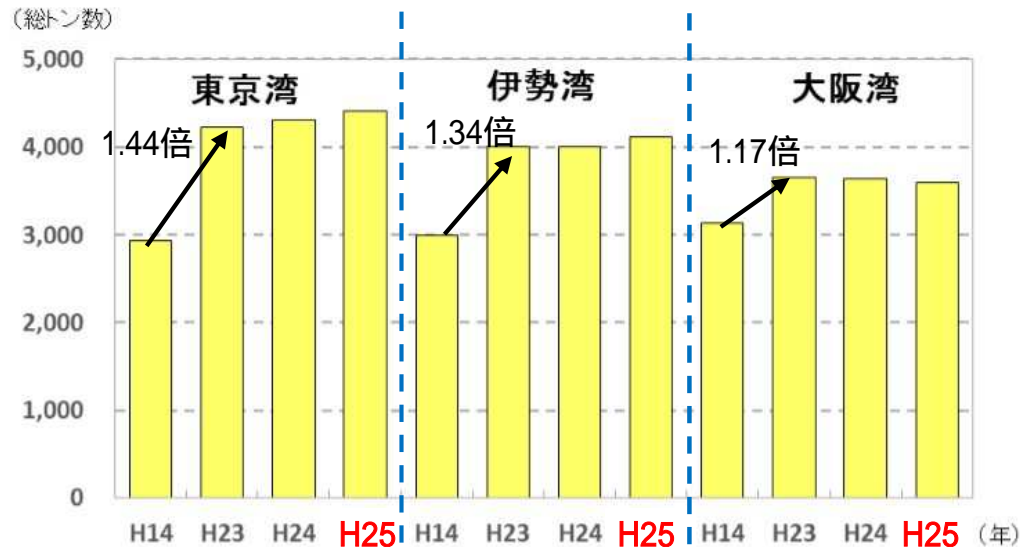
我が国周辺で発生する船舶事故隻数(本邦に寄港しない外国船舶によるものを除く。)を第8次計画期間(平成18~22年)の年平均(2,473隻)と比較して、平成27年までに、約1割を削減(2,220隻以下)する。

平成26年の船舶事故隻数は**2,138隻**であり、目標値(2,220隻)を達成



# 海上交通環境の現況

## 入港船舶の大型化



(凡例)

1隻当たりの総トン数の大きさ = 入港延べ総トン数 / 入港隻数

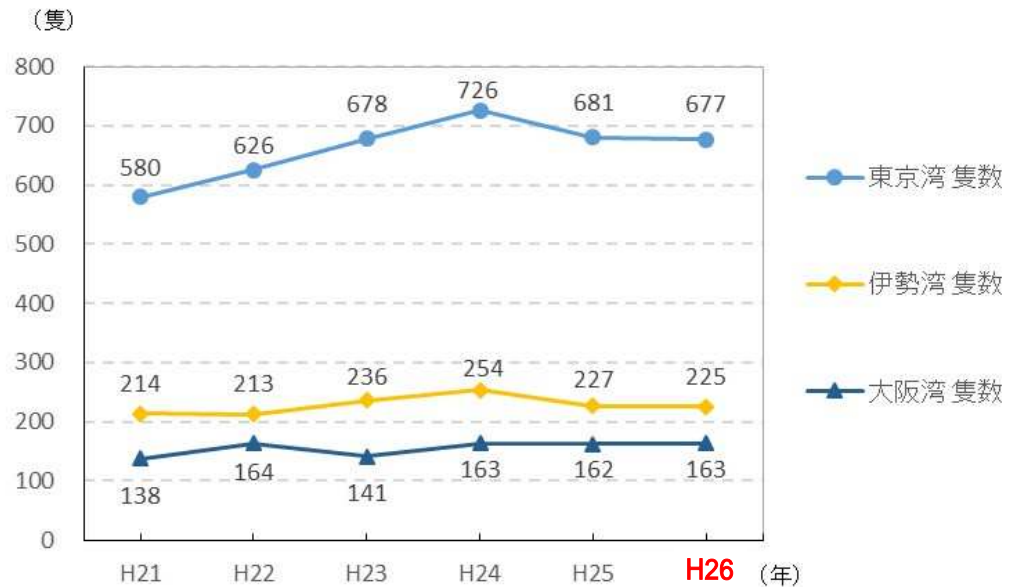
東京湾 木更津、千葉、東京、川崎、横浜、横須賀の6港

伊勢湾 三河、衣浦、名古屋、四日市、津松阪の5港

大阪湾 阪南、堺泉北、大阪、尼崎西宮芦屋、神戸の5港

(出典:国土交通省「港湾統計」から作成)

## LNG運搬船の入港隻数の推移



(凡例)

東京湾 木更津、千葉、川崎、横浜の4港

伊勢湾 三河、衣浦、名古屋、四日市の4港

大阪湾 堺泉北、大阪、神戸の3港

(出典:海上保安庁)

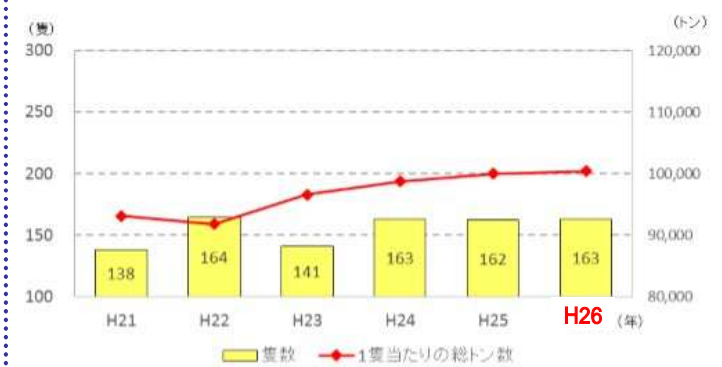
## 東京湾



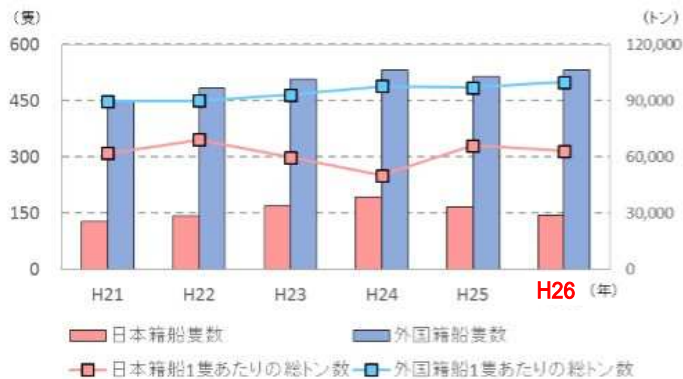
## 伊勢湾



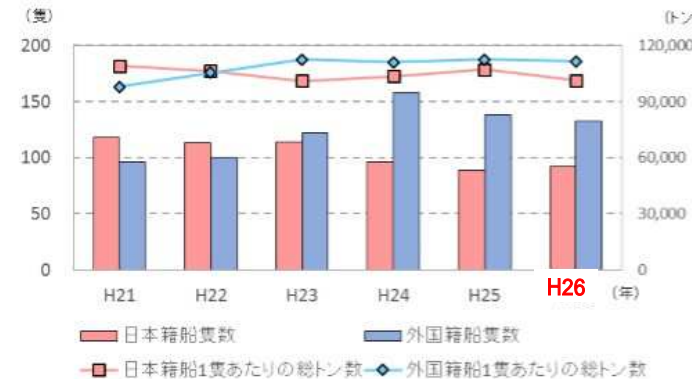
## 大阪湾



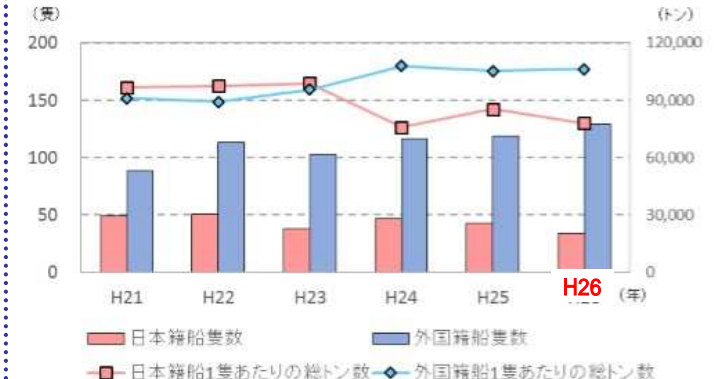
## 日本籍船と外国船籍との比較



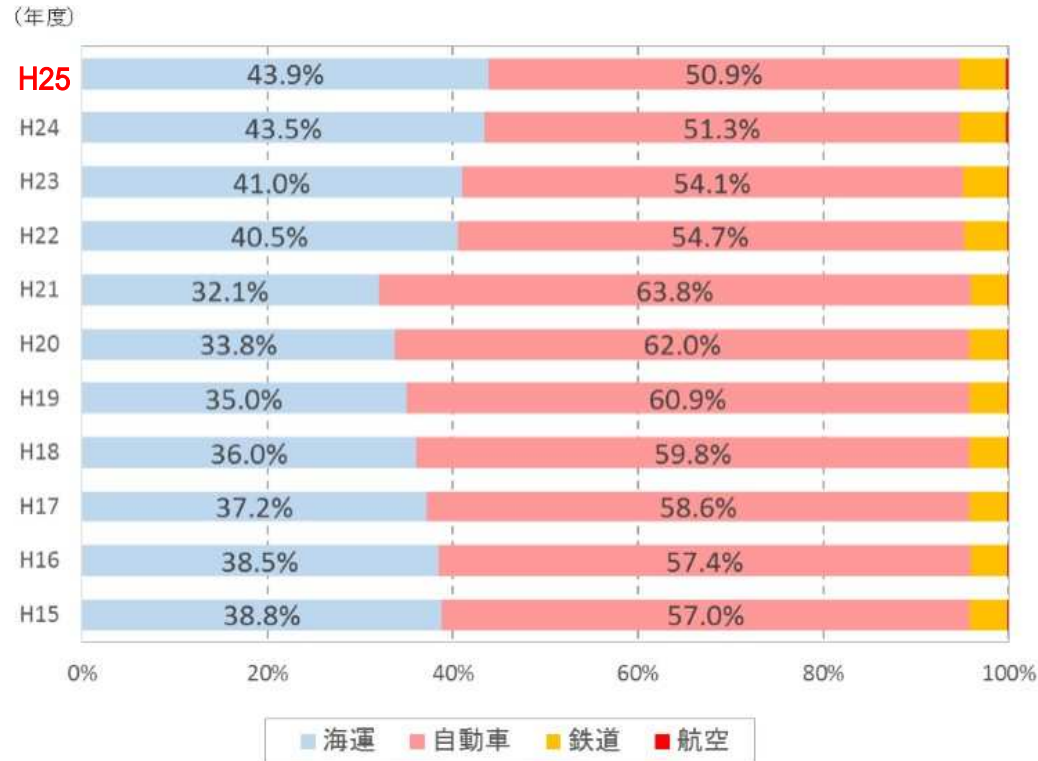
## 日本籍船と外国船籍との比較



## 日本籍船と外国船籍との比較



## 国内貨物輸送の機関別割合

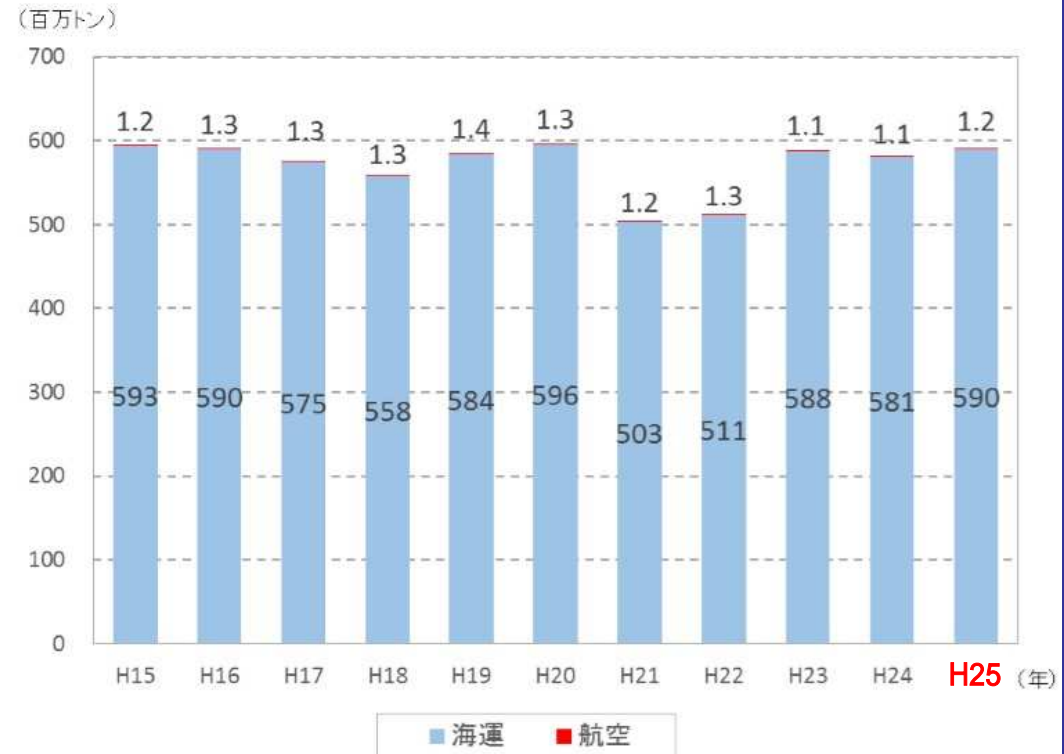


平成22年10月より、自家用貨物自動車のうち軽自動車及び自家用旅客自動車が調査対象から除外されている。結果、平成22年以降海運の輸送の割合が大きくなった。

国内貨物輸送の割合はトンキロベース

(出典:国土交通省「自動車輸送統計」、「鉄道輸送統計」、「内航船舶輸送統計」、「航空輸送統計」から作成)

## 国際貨物輸送量の推移



平成25年の値は暫定値

(出典:国土交通省「海事レポート」、「航空輸送統計」から作成)

## 日本籍船のAIS普及状況の推移



## 日本籍船の隻数

|          |         | 平成23年     | 平成24年     | 平成25年     |
|----------|---------|-----------|-----------|-----------|
| 一般船舶     | 内航船     | 5,357隻    | 5,302隻    | 5,249隻    |
|          | 外航船     | 136隻      | 150隻      | 159隻      |
| プレジャーボート | 水上オートバイ | 約66,000隻  | 約64,000隻  | 約63,000隻  |
|          | モーターボート | 約198,000隻 | 約190,000隻 | 約184,000隻 |
|          | ヨット     | 約11,000隻  | 約11,000隻  | 約11,000隻  |
| 漁船       | 漁船      | 252,665隻  | 254,052隻  | 248,516隻  |

データ年 内航船:年度末(出典:海事レポート 海事局) 漁船:年末(出典:漁船統計表 水産庁) (単位:隻数)  
 外航船:6月末(出典:海事レポート 海事局) プレジャーボート:年度末(出典:海事レポート 海事局)

## 航路標識整備事業費の推移

